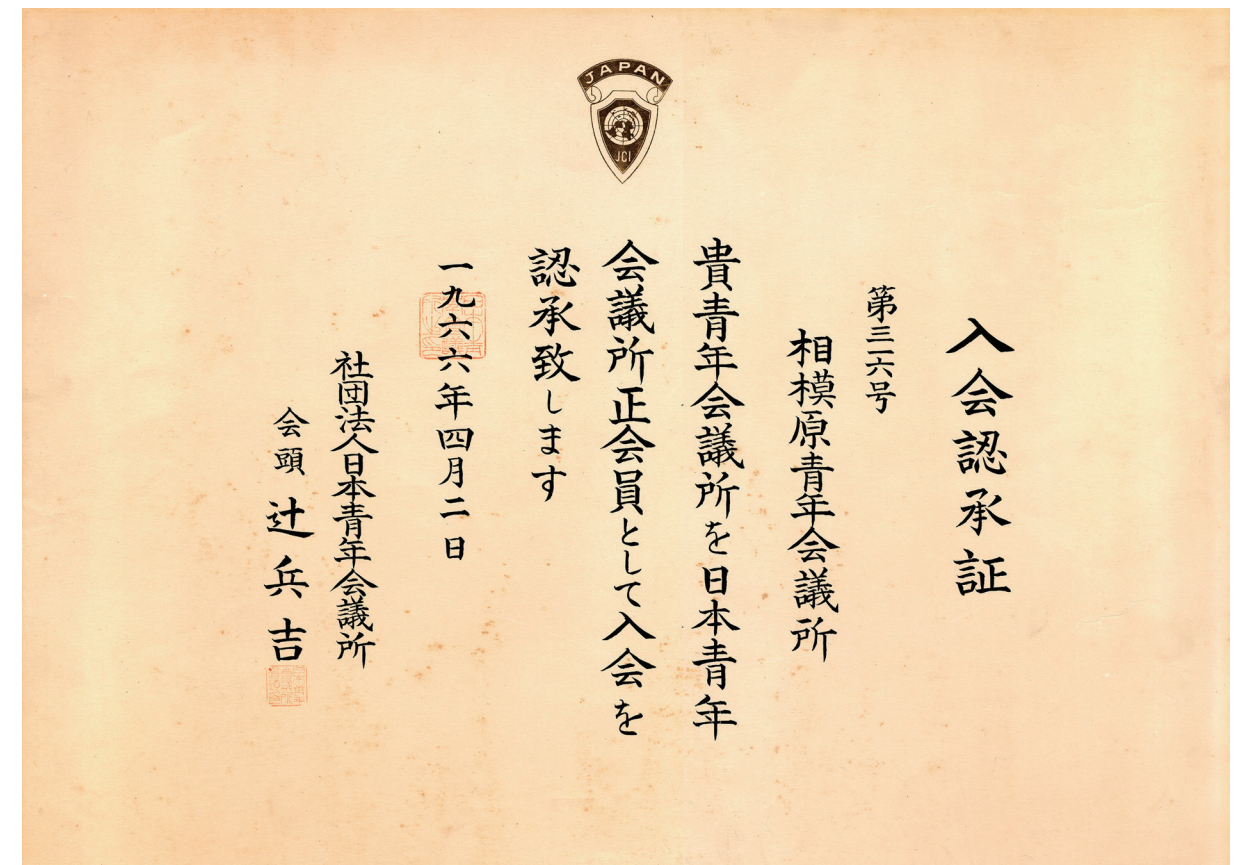




60th Anniversary

Junior Chamber International Sagamihara



目 次

セレモニー 4

 JCIクリード・JCI Mission・JCI Vision

 JC宣言文並びに綱領・関東地区宣言・LOM宣言

第60代理事長 挨拶 6

相模原青年会議所 シニアクラブ会長 挨拶 7

神奈川県知事 祝辞 8

相模原市長 祝辞 9

相模原商工会議所 会頭 祝辞 10

相模原市自治会連合会 会長 祝辞

公益社団法人 日本青年会議所 会頭 祝辞 11

公益社団法人 日本青年会議所 関東地区協議会 会長 祝辞

公益社団法人 日本青年会議所 関東地区 神奈川ブロック協議会 会長 祝辞 12

一般社団法人 川崎青年会議所 第75代理事長 祝辞

韓国釜山海雲台青年会議所 会長 祝辞 13

相模原青年会議所の歩み 14

目 次

50年代の軌跡 24

特集記事

 SDGs 44

 クワイエットアワー・ESD(地域の先生) 45

 なつのおと・コロナパンデミックに立ち向かう 46

 ステイホームさがみはら 47

 会員資格制度の改訂・雇用上手からサガジョブへ 48

 学生との連携・ジュニアハイスクール議会 49

 韓国釜山海雲台青年会議所との絆 50

2016～2025年 出向者 役員一覧 51

創立60年代LOM運動指針 52

正会員名簿 56

OB名簿 64

編集後記 72

JCI Creed

The Creed of Junior Chamber International

We Believe

That faith in God gives meaning and purpose to human life;

That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations;

That economic justice can best be won by free men through free enterprise;

That government should be of laws rather than of men;

That earth's great treasure lies in human personality;

and That service to humanity is the best work of life.

我々はかく信じる 真理は人生に意義と目的を与え 人類の同胞愛は国家による統治を超越し 公正な経済は我々の自由な経済活動によってこそ果たされ 政府には人治ではなく 法治が必要であり 人間の個性はこの世の至宝であり 人類への奉仕が人生最大の使命である

JCI Mission

To provide leadership development opportunities
that empower young people to create positive change.

青年会議所は、青年が社会により良い変化をもたらすために リーダーシップの
開発と成長の機会を提供する。

JCI Vision

To be the foremost global network of young leaders.

青年会議所が、若きリーダーの国際的ネットワークを 先導する組織となる。

JC 宣言文

日本の青年会議所は 希望をもたらす変革の起点として
輝く個性が調和する未来を描き 社会の課題を解決することで
持続可能な地域を創ることを誓う

綱 領

我々JAYCEEは 社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者、相集い、力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

関東地区宣言

わたしたちは日本の礎として あらゆる未来をみつめ
多様性溢れる仲間と共鳴し 新たな価値の創造により
新時代の旗手となることを誓う

LOM 宣言

私達は 全ての世代の架け橋として
愛するこのまちの輝きを 共に「知り」共に「育み」
選ばれるまち さがみはらを「創造」します

1965年、相模原市に生まれた1つの光は、今では無数の光となり、この相模原市を輝き照らしています。そして、その光は互いに結びつき、形を創り、私たちの歩むべき方向を指し示してくれています。

いつの時代も、人を想い勇気をもって挑戦する青年の姿が人の心を動かし未来を創ってきました。創立から今日に至るまで、人にまちに積極的な変化を創造し未来を創ってきた公益社団法人 相模原青年会議所には、自ら輝き、周りを輝かせることができる、そんな可能性が溢れています。

本年、私たち公益社団法人 相模原青年会議所は、創立60周年を迎えることになりました。この60年の間、本当に多くの関係者の皆様、行政・関係諸団体の皆様、企業・市民団体の皆様のご理解ご協力をいただき、地域に深い繋がりを築いてこられたことを、会を代表し、深く感謝申し上げます。また、明るい豊かな社会の実現という壮大な理想を胸に、変化を恐れずに心を燃やしひたむきに挑戦をし続けてきたからこそ、60年という歴史を積み上げることができました。改めまして、先輩諸兄姉の皆様方に深く敬意を表します。

相模原市は、今では72万人の方が住み暮らすまちとなり、首都圏南西部における広域交流拠点都市としての発展を期待されるまでになりました。この躍進は、先人達が挑戦する勇気と人やまちを想う情熱で行動を続けてきた努力の結晶であり、その精神をこれから先の未来にも繋いでいかなければなりません。世界規模での人口動態の変容、AI等の新技術の急速な発展、気候変動の影響など、社会は急速に変化をしています。情報が溢れ、様々な事象が一つの地域だけに留まらずに複雑に絡み合い影響を及ぼす時代だから



公益社団法人 相模原青年会議所

第60代理事長 八木 貴弘

こそ、私たちは人と人の顔の見える関係を大切にし、地に足をつけて、一人の人間として心を磨くこと、想像力を豊かにすることが求められます。

青年会議所は、社会に踏み出したばかりの青年が、多くの方からの支えをいただきながら、自らの足で理想に向かって行動をし、その結果、かけがえのない繋がりと自己成長を手にすることができる人生の学び舎です。

私たちの変化を恐れない未来への挑戦から、仲間、地域、社会との繋がりを深め、新たな可能性を生み出す運動を展開して参ります。

「仲間と共に未来を紡ぐ」



相模原青年会議所
シニアクラブ会長 山際 華代子

公益社団法人 相模原青年会議所が創立60周年を迎えられましたことに、シニアクラブを代表し心よりお祝い申し上げます。

これまで青年会議所運動に、心温まるご協力とご支援を賜りました相模原市民の皆様、関係諸団体、行政、企業の皆様。お力添えをくださいましたすべての方に深く感謝し御礼申し上げます。青年会議所の活動は、ひとづくり、まちづくり、そして発信です。若者には過酷だった新型コロナウイルス感染症による行動制限の中で模索し続けたことも大きな糧となり、人材育成に拍車がかかったのでしょうか。昨年は神奈川ブロック協議会会長の任。そして今年は日本青年会議所へ委員長の出向と、現役メンバーの活躍を嬉しく思います。

これからも皆様と手を取り合い、地域のニ-

ズに応えた活力と魅力溢れる活動に邁進し、勇気をもって夢溢れる未来をつくっていくことでしょう。

シニアクラブは「明るい豊かなまち さがみはら」の実現に向けて活動する現役メンバーを、今後も支援し、公益社団法人 相模原青年会議所の発展に協力してまいります。60周年に際し、一味徒党であります各青年会議所の皆様からの厚い友情と、思い溢れるお言葉に心より感謝申し上げます。

「地域の未来を 共創する力」



神奈川県知事 黒岩 祐治

公益社団法人 相模原青年会議所が創立60周年を迎えられることを、心からお祝い申し上げます。貴会議所は、1965年の創立以来、魅力あふれる相模原の未来のために、地域の課題に情熱をもって果敢に挑戦し続け、社会貢献や地域経済の活性化に取り組まれてきました。歴代の理事長をはじめとする役員の皆様、会員の皆様の長年にわたる御尽力に深く敬意を表します。

相模原市の橋本駅付近には、リニア中央新幹線の神奈川県駅（仮称）が開業する予定です。この地域は生活支援ロボットの実用化や普及を推進している「さがみロボット産業特区」内に位置しているほか、近くにはJAXA相模原があり、界内には多くの宇宙関連企業があります。そこで、県では特区の取組みを

加速化し、最先端ロボット開発に向けた新たな発想が生み出されるようなまちを目指すとともに、今後、宇宙関連企業等と、新たに宇宙産業に参入しようとする県内企業が共創を図るための拠点を整備し、宇宙関連の企業や研究機関なども集積させていくことで県内経済の活性化につなげていきたいと考えています。皆様におかれましては、引き続き地域社会の発展に御尽力いただきますとともに、今後とも県政の推進に理解とお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

最後に、このたびの創立60周年を契機とした、公益社団法人 相模原青年会議所の更なる御発展と会員の皆様のますますの、御活躍を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

「市民と共に 築いた60年」



相模原市長 本村 賢太郎

公益社団法人 相模原青年会議所が創立60周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。貴青年会議所は、1965年に創立されて以来、明るく豊かな社会の実現をめざし、様々な社会貢献活動に取り組み、着実な成果をあげてこられました。中でも、昭和49年以来多くの市民に愛されている市民まつりにおいて、実行委員長を務めていただくなど、まつりの中心的な役割を担っていただいているほか、近年は、ジュニアハイスクール議会を開催し、次代を担う中学生に議会を体験する場をすることで、地域をより良くする意識を持った若者の育成に御尽力を賜るなど、責任感と情熱をもった若い力で、本市を盛り立てていただいております。幅広い分野にわたる長年の活動に、深く敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げます。

本市は、昨年、市制施行70周年を迎えました。また、本年は、指定都市移行、区制施行15周年を迎えます。本市の礎を築いた先人たちの英知と偉業にあらためて感謝するとともに、次代に希望のタスキを繋いでいくため、決意を新たに歩みを進めてまいり所存です。

引き続き、多くの皆様と喜びを分かち合い、シビックプライドの醸成を図るとともに、選ばれる都市を目指してまいりますので、ワクワクする相模原の実現に向け、変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びとなりますが、公益社団法人 相模原青年会議所のますますの御発展と、会員皆様方の御活躍を心から祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

「社会課題に挑み
続ける若き力」相模原商工会議所
会頭 杉岡 芳樹

創立60周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。この節目に、今日の繁栄に至るまでの輝かしい功績を振り返り、未来に向けた歩みを進めて行くことは誠に意義深いことであり慶賀の至りに存じます。

青年の志と想像力に基づく情熱的な活動による豊かな地域社会の構築。歴代理事長はじめ役員、会員の皆様が築き上げてきた実績は正にそれを体現されてきました。

それぞれの時代における社会課題に柔軟に対応し、近年では青少年育成やSDGsの推進に果敢に取り組み、また人間関係が希薄になったコロナ禍においては、リーダーシップを存分に発揮し、地域の絆を繋いだ取組みは記憶に新しいところです。

今後も若いエネルギッシュな皆様方の勇気ある挑戦によって、相模原市の経済に明るく豊かな展望をもたらしていただけることをご期待申し上げるとともに、相模原青年会議所が創立60周年を契機に一層飛躍され、益々のご発展を遂げられますことを心から祈念いたします。

「地域と共に
歩んだ軌跡」相模原市自治会連合会
会長 大木 恵

創立60周年を迎えられたことに心よりお祝い申し上げます。青年会議所の会員さんはそれぞれ若いときの20年という期間に、さまざまな分野において、特に地域活性化につながる事業を企画・立案・実施され、卒業後にはその経験をもとに地域の中で活躍されていることに敬意を表します。

皆さまの培ったご経験は、60年の間に着実に受け継がれ、社会に貢献しようという理念に基づいた、地域を大事に考える姿勢には、私ども自治会も影響を受けております。

地域をよくしたいという同じ思いで活動しております自治会ともコラボできる機会があれば、お互いに切磋琢磨できる関係づくりを構築して参りましょう。

これからも地域をよくしたいという思いの実現を目指してご活躍されることを祈念申し上げます。

Raise Your Flag
「理想への挑戦」公益社団法人 日本青年会議所
会頭 外口 真大

公益社団法人 相模原青年会議所の皆様、創立60周年、誠におめでとうございます。60年という長きにわたり、地域に多くの運動を生み出してこられたことに対し、心より敬意を表します。創立以来、青年経済人の想いを紡いでこられた貴青年会議所におかれましては、諸先輩方の熱き想いを承継し、60周年という記念すべき年に、八木貴弘理事長のもと、スローガン「夢を描く～輝きのその先へ～」を掲げ、明るい豊かな社会の実現を目指し、理想に向かって邁進されることと存じます。本年度、日本青年会議所は「希望あふれる理想を描き変えたのだと誇れる未来へ」を基本理念に掲げました。社会課題解決運動から社会開発運動へと転換し、魅力ある運動を通じて家族・会社・地域のために誇れる組織の実現を目指し、各地の皆様と手を携え、日本や地域がより良くなるための運動を展開してまいります。引き続き深いご理解とご支援をお願い申し上げますとともに、日本青年会議所を大いにご活用いただければ幸いです。

結びに、貴青年会議所のさらなるご発展、並びに地域において素晴らしい運動の成果を出されること、さらに皆様にとって本年が素晴らしい一年となりますことを心よりご祈念申し上げます。

「新たな価値を創造し、
未来へつなげていく」公益社団法人 日本青年会議所
関東地区協議会
会長 渋谷 巧

この度、公益社団法人 相模原青年会議所が創立60周年を迎えられますことに、衷心よりお慶び申し上げます。

創立から今日に至るまで地域の発展にご尽力されてこられました先輩諸氏の皆様に敬意を表するとともに、誇り高き志と伝統を受け継ぎ、自己修練を重ねながら社会貢献に邁進されている現役会員の皆様にお祝いを申し上げます。

本年度、八木理事長のもと、明るい豊かな社会の創造に向け、次の5年、10年へと地域の魅力をさらに高められることをご期待申し上げます。

関東地区協議会では地域間連携と意識変革を通じて共助社会の構築を目指してまいります。また関東地区協議会の広域連携を活かしながら新たな価値を創造し、未来へつなげていく一年といたします。

結びに、公益社団法人 相模原青年会議所の益々のご発展と会員の皆様のご活躍、さらには 皆様の運動が地域社会において素晴らしい成果を発揮されますことを心より祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

「地域を導く 新たな一歩へ」



公益社団法人 日本青年会議所
関東地区 神奈川ブロック協議会
会長 大黒 健司

公益社団法人 相模原青年会議所が創立60周年の節目を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。60年に亘る歴史を紡ぎ、地域社会の発展にご尽力されてきた先輩諸兄姉の皆様と、誇り高き志を受け継ぐ現役メンバーの皆様に敬意を表します。また、永年に亘り神奈川ブロック協議会の運動にご理解とご協力を賜っていることに、改めて御礼申し上げます。さらに、昨年度は飯塚侑先輩を第57代会長として輩出いただき、力強いリーダーシップで神奈川ブロックを牽引していただきましたこと、重ねて感謝申し上げます。

貴青年会議所は1965年の創立以来、相模原市において市民を先導しながら様々な運動を展開し、素晴らしい成果を挙げてこられました。特に近年は会員拡大において県内の模範ともなる成功を重ねております。

そして本年も八木貴弘理事長の掲げるスローガン「夢を描く～輝きのその先へ～」のもと、力強くもあたたかな運動を展開され、地域を輝かせていることを喜ばしく思います。

結びに、この60周年を契機に公益社団法人 相模原青年会議所が今後ますます発展されることと、メンバーの皆様のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

「時代を超えた 熱き挑戦」



一般社団法人 川崎青年会議所
第75代理事長 木村 正

この度、公益社団法人 相模原青年会議所が創立60周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

貴会議所におかれましては、1965年に創立して以来、地域のために行動し続け、先輩諸兄姉が築いてきた努力と熱き想いを脈々と継承してこられました。

昨今の社会情勢を鑑みると、まだまだ不安定な情勢であることは否定できませんが、このような時代だからこそ、青年会議所が存在感を示し、新たな価値観を創出していかなければなりません。

本年度のスローガン「夢を描く～輝きのその先へ～」は、正に今の時代に即した素晴らしいメッセージが込められており、貴会議所が、八木貴弘理事長を中心に一丸となり、地域において新たな息吹を感じさせる様々な運動を展開されておりますことに敬意を表する次第です。

結びになりますが、創立60周年を契機に公益社団法人 相模原青年会議所の皆様の更なるご健勝とご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

「国境を越えた 友情の絆」



釜山海雲台青年会議所
会長 ジョン・ジェグオン

相模原JCの創立60周年を心よりお祝い申し上げます。

青年会議所という名のもと、相模原JCが地域社会のために歩んできた60年の軌跡は単なる時間の蓄積ではなく、青年の理想と実践が生み出した貴重な歴史だと思います。その長い旅路の中で、皆様が見せてくださった献身と責任感、そして変わらぬ情熱に深い敬意を表します。

併せて、今日の相模原JCがあるまでの心強い基盤となってくだった歴代理事長の方々と卒業した先輩の皆様の労苦とご尽力にも深く感謝申し上げます。

釜山海雲台JCと相模原JCは1982年9月15日に交流を開始して以来、今年で43年間、友情を結び続けております。国境を越えたこの大切な縁は、両都市の青年たちが共に築いた共感と信頼の象徴であり、単なる交流を超え、お互いのアイデンティティと価値を共有しながら成長してきた旅路でもあります。

これまでの長い歲月の中で両国の団体が共に分かち合った経験と学びは、単なる出会い以上の意味を持ち、これからの60年を準備する今日この場にも大きな響きとなっております。これからの新しい60年も、また相模原JCが地域社会の希望であり、日本の青年会議所運動の中心としてさらに成長していくことを心よりお祈り申し上げます。私も釜山海雲台JCも変わることなくパートナーとしてその道を共に歩んでまいります。

改めて創立60周年をお祝い申し上げ、相模原JCの益々の発展と会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

존경하는 사가미하라JC 여러분, 안녕하십니까.

부산해운대JC 회장 정재권입니다.

사가미하라JC의 창립 60주년을 진심으로 축하드립니다.

청년회의소라는 이름 아래, 사가미하라JC가 지역 사회를 위해 걸어온 60년의 발자취는 단순한 시간의 축적이 아니라, 청년의 이상과 실천이 만들어낸 귀중한 역사라 생각합니다.

그 긴 여정 속에서 여러분이 보여주신 헌신과 책임감, 그리고 변함없는 열정에 깊은 존경의 마음을 표합니다.

아울러, 오늘의 사가미하라JC가 있기까지 든든한 기반이 되어 주신 역대 이사장님들과 졸업한 선배 여러분의 노고와 헌신에도 깊이 감사드립니다.

부산해운대JC와 사가미하라JC는 1982년 9월 15일 교류를 시작한 이래, 올해로 43년째 우정을 이어오고 있습니다.

국경을 초월한 이 소중한 인연은 두 도시의 청년들이 함께 쌓아올린 신뢰와 교감의 상징이며, 단순한 교류를 넘어 서로의 정체성과 가치를 공유하며 성장해 온 여정이기도 합니다.

그간의 긴 세월 속에서 양국의 단체가 함께 나눈 경험과 배움은 단순한 만남 이상의 의미를 지니며, 앞으로의 60년을 준비하는 오늘 이 자리에도 큰 울림이 되어주고 있습니다.

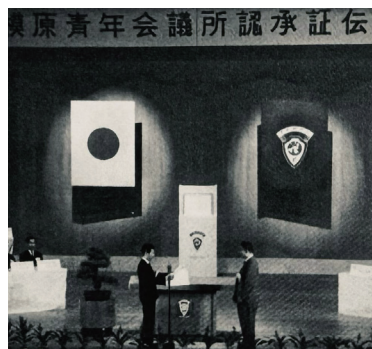
다가오는 새로운 60년 또한, 사가미하라JC가 지역 사회의 희망이자 일본 청년운동의 중심으로 더욱 성장해 나가시길 진심으로 기원합니다.

저희 부산해운대JC도 변함없는 파트너로서 그 길에 함께하겠습니다.

다시 한 번 창립 60주년을 축하드리며, 사가미하라JC의 무궁한 발전과 회원 여러분의 건승을 기원합니다.

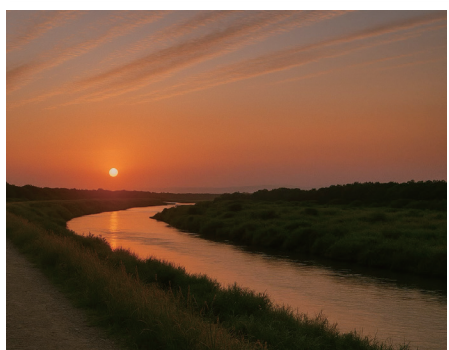
相模原青年会議所の産声

1965年、東京青年会議所メンバー木下治氏の熱意と、相模原ロータリークラブの後押しに加え、スポンサーLOM川崎青年会議所の献身的な努力が重なり、若き有志たちが集結した。9月18日、三信会館に36名が集い創立総会を開催。定款が整い、夢が現実へと動き出した。翌1966年7月17日、市民会館での認証伝達式。暗転からスポットが走る演出、米軍楽隊の響き。認証番号316が手渡されたその瞬間、相模原青年会議所は歴史に名を刻み、堂々と産声を上げた。閉式後、田名の河原で行われたエクスカッションでは、鮎のつかみどりに歓声が響く。成長著しい相模原に、青年の責任と友情が確かな形を得た一日。その産声は、今も運動の礎として鳴り響いている。



認証証が灯した一日 1966年7月17日

1966年7月17日、相模原市民会館で相模原青年会議所の認証伝達式。満席の場内には来賓の祝辞が続き、整然と進む式次第が準備の確かさを物語る。スポンサーLOMの川崎青年会議所をはじめ多くの仲間が見守り、若き実行委員は舞台・受付・誘導まで息の合った運営で応えた。式を終えた会員の表情には安堵と決意が宿り、相模原に貢献する誓いが一つに結ばれた日である。前夜の雨が嘘のような快晴の下、記念撮影や来賓との交流が続き、片付けを終えた後に田名の河原からの夕日を眺め、労い合ったという。



1965

昭和40年

- 相模原ロータリークラブ全面バックアップの元、第1回発起人会開催
- 川崎J.C.がスポンサーLOMに決定
- 全7回にわたる準備委員会開催
- 仮相模原青年会議所創立総会

初代理事長
矢島 治

1966

昭和41年

- 創立総会
- 認証伝達式の挙行(認証番号316号)
- 学童通学路標識の寄贈
- 「からだの不自由な子に大きな夢を」ドリームカード発行
- J.C.デー特別講演会

第2代理事長
土屋 定

1967

昭和42年

- 市議会議員を囲む会
- 県議会議員を囲む会
- J.C.デー「交通戦争から市民を守る」の実施調査
- 神奈川ブロック、ジャガイモ大会の主管
- 広報紙「柴胡」第1号発行

第3代理事長
飯田 亨

1968

昭和43年

- J.C.デー「市教育長を囲む会」
- 「市立青年の家」立看板寄贈
- 一般公開例会、交通法令講習会
- ジャガイモゴルフ、家族会、ボーリング大会などの実施

第4代理事長
古藤 友昭

1969

昭和44年

- 神奈川ブロック協議会主管
- 市長を囲む会「本年度の市政について」
- J.C.デー「青少年問題」市民討論会
- 防衛問題アンケート
- 社会協力委員会の発足

第5代理事長
宮崎 直道

1970

昭和45年

- J.C.デー「70年代の教育について」市民集会 無着成恭氏
- 市内中、高校生作文募集、発表会
- 創立5周年記念例会
- 「日本の安全と防衛」市民アンケート

来場人数19万人を誇った初めての桜まつり

相模原青年会議所と市民桜まつりの歴史は、1974年4月6日7日に行われた、市制20周年記念事業にさかのぼる。前年1973年、模擬市議会の場内は張りつめていた。問いかけが響くたび、傍聴席の空気が揺れる。その後の表敬訪問で市長・助役から「市民が参加し、郷土意識を高める祭りを」と託された願いがすべての始まりだった。人口が爆発的に増え転入者が多数あった当時、地域をひとつに束ねる象徴が求められていたのである。相模原青年会議所は実行の中核となり、市役所とともに歩行者天国にするため保健所・警察・運輸省の手続きや露天商の元締めとの調整(トラブルは次年度出店を認めないことで官民連携で整えた)。市民パレード、鼓笛隊、展示や飲食、ガラクタ市や臨時無料電話舎、ふるさとコーナー。熱気と笑い声がひとつの流れになって通りを満たす。初日は花冷え。2日目は雲が割れ、青空が一気に広がった。来場者は2日間で19万人、市史上残る賑わいの中、「市民の手による祭典」は相模原における春の風物詩として歩み始めた。



1971

昭和46年

- 第1回チャリティーショー劇団四季「ハムレット」上演
- 相模原青年会議所、定款及び書式の整備
- 「公害」についての討論会
- 「横浜線複線化」問題についての例会

第6代理事長
内田 寛

1972

昭和47年

- 日本ボイスカウト相模原第7団、発団式の挙行
- 青年の船「あすの青年号」に参画及び報告会
- 第2回チャリティーショー劇団四季「オンディーヌ」上演
- 市議会議長を囲む討論会
- 一般公開「経営セミナー」牛尾治朗氏

第7代理事長
宮崎 昇

1973

昭和48年

- 相模原模擬市議会の実施
- J.C.デー「早起き野球大会」
- チャリティーボーリング、ゴルフ大会
- 韓国親善旅行
- 第3回チャリティーショー劇団四季「間奏曲」上演

第8代理事長
山内 大

1974

昭和49年

- 第1回市民桜まつりへの参画
- 交通キャンペーン、交通安全教室
- 「柴胡」民版発行
- 第4回チャリティーショー「ねむの木」上演
- 第1回ビジネス放談会

第9代理事長
川合 貞義

1975

昭和50年

- 創立10周年記念式典
- 第2回市民若葉まつりへの参画
- J.C.文化講座 無着成恭氏
- 西丸震哉氏
- 早起き野球大会
- 新入会員拡大の実施

第10代理事長
大貫 一男

J C ルーム設置・社団法人格取得

1976年は、「JCルーム設置」という節目の年であった。この年、常設の活動拠点としてのJCルームが初めて設けられたのである。それまでの活動は、市民会館や会員企業の一室を借りて進められていた。しかし会員数の増加と事業の拡大により、安定した会議や資料整理の場を必要とする声が高まっていた。こうした背景のもとに誕生したのが、相模原青年会議所が自前で持つ初めての「拠点」だった。JCルームは、メンバーが集い、議論を交わし、資料を整え、次の運動を描く場として機能した。単なる部屋の確保にとどまらず、組織基盤を強化し、地域での運動を一層力強く展開するための象徴となった。さらにこの年には、悲願であった社団法人格も取得。延べ17回にわたって県庁へ足を運び、粘り強く手続きを重ねた末に実現した。JCルームの設置と法人格の取得、この2つの出来事は組織の安定的な運営と、社会的信用の基盤となった。現在、JCルームや法人格があることは決して当たり前ではなく、確かな歴史と努力があったことを私たちは忘れてはならない。

大和青年会議所設立の背景

1978年、相模原青年会議所は対外事業を「ふるさとづくり運動」に統一し、市民と共に歩む運動を推進した。桜まつりや若葉まつりで市民参加事業を展開し、その功績が評価され翌年、関東地区協議会より開発優秀賞を受賞する。この受賞が大和青年会議所設立の鍵となった。当時の日本青年会議所では、新LOM設立に「大規模大会の主管」または「褒賞受賞」が条件とされていたからである。大和での設立は横浜・厚木青年会議所が試みたが、中心メンバーがなかなか定まらず前進できなかった。そうした中、相模原は受賞によりスポンサー資格を得て設立を後押しした。偶然と努力が重なり、大和青年会議所誕生という歴史的瞬間が実現したのである。



ブロック会長誕生と相模原青年会議所の飛躍

神奈川ブロック協議会の会長を輩出することは、長年にわたり相模原青年会議所の悲願であった。その悲願が初めて実現したのは1981年、第14代会長に中村宣勝先輩(第11代理事長)が就任した時である。この年、相模原青年会議所は100名LOMを達成し、規模と影響力の拡大を示した。その後も力を蓄え、2003年には第36代会長に伊藤信吾先輩(第37代理事長)、2008年には第41代会長に柴田正隆先輩(第39代理事長)、さらに第57代会長に飯塚侑先輩(第56代理事長)を輩出。ブロック大会の主管も担い、県内での存在感を高めていった。こうした挑戦と努力の積み重ねにより、相模原青年会議所は今や県下21LOM中2番目の会員数を誇るまでに成長した。

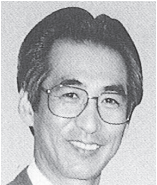


津久井青年会議所設立の背景

1982年、相模原青年会議所にとって2つ目の子LOM・津久井青年会議所が産声をあげた。当時はまだ津久井郡四町として独自の行政区をなし、相模原青年会議所はその地の自立と発展を願い、道を開いたのである。40数名の同志による船出は、全国703番目の認承認を受けて歴史に刻まれた。運動の根幹に据えられたのは「まちづくり」と「ひとづくり」という二つの柱。この普遍の理念は時代を超えて受け継がれ、津久井という地域に深く根を張った。相模原青年会議所が手を携え生み出したこのLOMは、四十余年を経た今もなお、郷土を愛し、未来を担う人を育む使命を胸に歩みを続けている。



1976 昭和51年	1977 昭和52年	1978 昭和53年	1979 昭和54年	1980 昭和55年
● 社団法人格の取得記念例会 ● J C 文化講座「君は君、僕は僕でも仲良く」茅誠司氏 ● J C ルームの設置 ● 第3回市民桜まつりへの参画 ● 「早起き野球大会閉会式」カイザー田中氏	● 市民総合意識アンケートの実施 ● 第4回市民桜まつりへの参画(仮装パレード、特設ステージ) ● 「40万人の連帯」パネルディスカッション ● ふるさと意識調査プリテストの実施	● 公開例会「ふるさとづくりを考える」 ● 第5回市民桜まつりへの参画(仮装パレード) ● 桜まつりポスター展 ● 模擬結婚披露宴 ● 「自信の歩みと経営戦略」篠崎隆氏 ● 「アイワールドの歩みと経営戦略」五十嵐由人氏 ● 「野球を通じての人づくり」砂押氏	● 新設LOM・大和青年会議所に拡大 ● 関東地区協社会開発優秀賞(褒章)(市民桜まつり) ● 第6回市民桜まつりへの参画 ● J C は今何を考え、何をすべきか ● 納涼座禅会 ● (社)相模原青年会議所入会手引書の作成	● 15周年記念例会 ● 青少年健全育成相模原市民会議 ● 15周年記念経済人セミナー「80年代の経済動向を探る」竹村健一氏 ● 大和青年会議所合同例会 ● 明るい豊かな社会づくり館盛相模原市長 ● 市民会議「リーダー育成」討論会 ● 相模原大和・座間、3LOM合同例会 ● 第7回市民桜まつりへの参画
				
第11代理事長 中村 宣勝	第12代理事長 久保田 栄一	第13代理事長 水谷 好佐	第14代理事長 菅沼 山一	第15代理事長 香川 正勝

1981 昭和56年	1982 昭和57年	1983 昭和58年	1984 昭和59年	1985 昭和60年
● 神奈川ブロック協議会会長出向 ● 「日中友好青年の翼」の実施 ● J C ティー「第1回」さがみはら少年の主張 ● 第8回市民桜まつりへの参画 ● 会員拡大、100名LOMの達成 ● 大和J C 合同例会 ● 麻生太郎氏、森輝彦君 ● 少年野球教室の実施 ● 関東地区協議会会長公式訪問例会(100%出席)	● 韓国釜山海雲台青年会議所との姉妹締結 ● 新設LOM・津久井青年会議所に拡大 ● 神奈川ブロックジャガイモ大会の主管 ● ソフトボール大会、クリスマス家族会 ● J C メンバーが取り組める地域の教育活動	● 相模原・大和・津久井、3LOM合同例会の開催 ● 韓国釜山海雲台青年会議所・交流ソフト ● ボール大会実施・相互公式訪問の実施 ● 「戦国武将とその時代の人々」田中澄江氏 ● 「すぐに役立つ正しい会議のすすめ方」竹前勝夫氏 ● 「企業と青年会議所におけるリーダーシップ」斉藤斗志二氏	● 韓国釜山海雲台青年会議所7周年記念例会出席 ● 作成 ● 20周年準備会議の開催(答申申請「20周年の在り方」) ● 公式訪問例会「相模川バイパス」構想の提案 ● 館盛相模原市長 ● 「21世紀をめざすさがみはらプラン」 ● 第12回神奈川ブロック会員大会の主管 ● (記念講演会)藤原弘達氏、竹村健一氏 ● 「緑の保全と育成」わんぱくバトロール ● 「緑チャリティーコンサート」 ● 青年の役割 館盛相模原市長 ● 2LOM合同公式訪問例会「地域経済の活性化」	● 20周年記念式典(記念講演・金田正一氏) ● 第2回日中友好青年の翼の実施 ● 緑の保全と育成「わんぱくバトロール」 ● 「緑チャリティーコンサート」 ● 青年の役割 館盛相模原市長 ● 2LOM合同公式訪問例会「地域経済の活性化」
				
第16代理事長 秋石 圭一	第17代理事長 飯淵 雅敏	第18代理事長 根本 忠幸	第19代理事長 小形 年雄	第20代理事長 内田 一夫

ミスコンから観光親善大使

1988年、相模原青年会議所は新たな挑戦として「ミスさがみはら」を誕生させた。相模原市民桜まつりのパレードで華やかにデビューした3人の「ミス」は、市民の目を引き付け、まつりの象徴として鮮烈な第一歩を刻んだ。この企画は数年前から構想されていたものの、募集開始当初は反応が乏しく、事業の成否が危ぶまれた。しかし締切間近になって応募が殺到し、その数は100名を超えた。メンバーと共に東京の百貨店でユニホームを決めるなど、その歩みには常に新鮮な高揚感と期待が満ちていた。審査にあたっては、単なる美の競演にとどまらない工夫が凝らされた。「ミス・コン批評」とも言われる社会的視線を踏まえ、応募動機や市政への関心、心構えを重視した書類選考、そして自然体での受け答えを見極める面接審査の2本立て。容姿にとらわれず「健康で明るい女性」を選ぶという理念が貫かれた。選ばれた「ミスさがみはら」は、市民桜まつりに限らず、交通安全や環境キャンペーン、一日税務署長など、年間約20回出動した。これに青年会議所メンバーが帯同し、采配を振るうことは、まさに青年会議所の社会的責任と誇りを体現する場であった。相模原市民桜まつりもまた、パレードの華やかさにとどまらず、市民団体の活動発表や子どもたちの催しを取り入れ、点から面へと広がりを見せていった。やがて多くの団体が運営に参画するようになったが、その先頭に立ち続けたのは、常に相模原青年会議所であった。そして「ミスさがみはら」は時を経て、市の顔としての役割を引き継ぎ、現在は「相模原市観光親善大使」として発展を遂げている。その伝統はいまも脈打ち、選考審査員を相模原青年会議所の理事長が担い続けている。一つの企画から始まった挑戦は、地域に根差す制度として形を変えながら息づいている。それは、時代を超えて続く「市民と共にある青年会議所」の精神を、鮮やかに映し出しているのである。



問題の本質を突くという在り方

市内で交通事情の問題が多く聞かれる中、ユニークな交通シンポジウムが開かれた。その名も「渋滞を三倍楽しむ方法」である。国道16号の渋滞を踏まえた変わった切り口で、「ガードレールに楽しい絵を張る」「街路にミカンの木を植える」といった意見も出た。しかし登壇した梅澤理事長はそれを良しとせず、本当の問題は大型店の進出で幹線道路から溢れた車が生活道路に流れ込み、子どもたちの安全を脅かしている点にあると指摘し、その危険性を強く発信した。地域課題の背景を徹底的に分析し、本質的な解決を目指す青年会議所の在り方を体現した瞬間であった。



恐竜型ゴミ回収装置「美化ゴン」

1994年、第29代理事長本多宏明の年の「桜まつり」に、相模原青年会議所史上最大級の寄贈品が登場した。恐竜型ゴミ回収装置「美化ゴン」である。公益財団法人日本財団が巨額を投じて開発した重機で、「未来の清掃ヒーロー」として期待を集めた。パレードに出すため、鋼鉄製のキャタピラをゴム製に付け替える作業を夜を徹して行うなど、メンバーが情熱をもって取り組んだ。その後、いよいよ河川清掃に挑んだが、残念ながら性能は今ひとつ。市役所前に展示されたのち、行政の要請で廃棄されることとなった。夢は大きかったが、現実は一筋縄ではなかった。今では語り草となる“幻のマシン”である。



1986

昭和61年

- JCスクールの実施
- 緑の保全と育成
- 「みどりチャリティーショー・アンパンマン」2LOM合同例会「我が町を考える」LDセミナー（一泊）志水陽光氏経営セミナー
- JCデー全国一斉100%例会

第21代理事長
杉岡 芳樹

1987

昭和62年

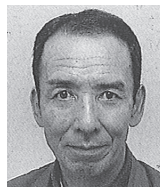
- 緑チャリティーショー「アラジン」劇団飛行船
- 「JCとは」田舞元副会頭
- 「JCと義理」
- 林達夫 東京JC
- 「会員全員拡大の必要性」浅利会頭
- 「一泊」PFPプログラム
- 海雲台青年会議所との絵画交流会

第22代理事長
浦上 裕史

1988

昭和63年

- 「87青年経済人フォーラム
- 緑チャリティーショー「アラジン」劇団飛行船
- 「JCとは」田舞元副会頭
- 「JCと義理」
- 林達夫 東京JC
- 「会員全員拡大の必要性」浅利会頭
- 「一泊」PFPプログラム
- 海雲台青年会議所との絵画交流会

第23代理事長
山崎 章

1989

平成元年
(昭和64年)

- みんなで相模川フェスティバル'89
- MG研修「ビジネス感性トレーニング」
- LD研修「魅力開発プログラム」林和代氏
- 「25周年の重み：なぜ」鎌田秀則氏
- ASAPAC'89 ヨコハマへの参加

第24代理事長
水野 隆弘

1990

平成2年

- 25周年記念講演会 舛添要一氏
- 関東地区相模原コンベンション'90
- 25周年記念式典
- みんなで相模川フェスティバル'90

第25代理事長
渡辺 章

1991

平成3年

- 「90年代消費トレンドとビジネスチャンス」福田優二氏
- 「競争社会を生き抜く為のリーダーシップ」高橋博氏
- 交通シンポジウム
- 「姉妹交流10周年をむかへて」飯淵雅敏・根本忠幸先輩
- 「外国人労働者雇用問題」長尾源一氏

第26代理事長
梅澤 武彦

1992

平成4年

- 海雲台青年会議所創立15周年記念式典への出席
- 納涼祭相模川高田橋
- 「すてきなひとづくりセミナー」丸山浩路氏
- 舛川洋栄氏/尾上達矢氏/マリ・クリスチヌ氏
- 「世界の中の日本人の果たす役割」梅沢重雄氏

第27代理事長
細谷 政幸

1993

平成5年

- 第20回市民桜まつりへの参画
- 「夜桜コンサートの実施」
- JC東京会議への参加
- 「出向、未来へJC運動」岡田伸浩会頭
- 自己理解、他者理解

第28代理事長
荒井 達雄

1994

平成6年

- 一泊、新年会及び研修会
- クリーン大作戦 LOVE 相模原'94の実施
- 相模川クリーン作戦への参画
- 「3LOM合同例会」町田青年会議所・多摩青年会議所との実施
- 恐竜型ゴミ回収装置「美化ゴン」の譲り受け

第29代理事長
本多 宏明

1995

平成7年

- 新年総会及び賀詞交歓会
- 市長例会
- ブロック会長公式訪問、2LOM合同例会
- 第1回わんぱくグリーンフェスティバル
- 30周年記念式典実施

第30代理事長
角尾 彰央

さがみ風っ子トレイルランニング -自然と絆をつなぐ挑戦-

「相模原の雄大な自然を活かし、名物となるスポーツイベントを」との思いから立ち上げたのが、城山湖畔を舞台とする親子参画事業「さがみ風っ子トレイルランニング」である。2010年から6年間にわたり継続開催され、相模原の魅力を体感し発信する場として根づいていった。参加者は初回119人から、第6回には859人へと拡大。運営も青年会議所単独から、大学や病院、ボーイスカウト、NPOなど多彩な団体と協働する形へと成長した。第3回では写真コンテストや名産品コンテストを同時開催し、市民自ら「さがみはら」を発信。第4回では障がい者枠を創設し、共生の理念を取り入れた。さらに第5回では実行委員会方式を導入し、地域とともに創り上げる仕組みへと進化した。単年度制の青年会議所において、6年にわたり継続されたこと自体が特筆すべき軌跡である。この大会は、今後も多様な人々を巻き込み、相模原を代表するスポーツイベントとしてさらなる発展を遂げていこう。



東日本大震災と「優しさまつり」

2011年3月11日、東日本大震災が発生。桜まつりや例会が中止となり、自粛の空気が広がった。しかし「前を向くことこそ使命」との思いから、相模原青年会議所は動き出す。各団体と協議し市役所に協力を仰ぎ、翌月、淵野辺公園で「優しさまつり」を開催した。OBも駆けつけ、市民と青年会議所が一体となってつくり上げた祭りは、希望を取り戻す象徴となった。会場では支援のコインアートが描かれ、募金は銀河連邦で結ばれた大船渡青年会議所へと託された。この取組はその後2年間の桜まつりにも引き継がれ、寄付金として届けられた。その出会いが築いた絆は今も息づき、2つのLOMを力強く結んでいる。



S-1グランプリ — 相模原名物を求めて

「地域に誇れる名物を誕生させたい」との想いから、2014年9月、淵野辺公園で「秋の大市民まつり」を開催。その目玉企画が、市内の名産品や新商品を集め「これぞ相模原!」を決めるS-1グランプリであった。オギノパンの給食あげばん、高座豚のコロッケ、津久井大豆味噌、福よしのハンバーグ…。伝統から新しい挑戦まで21品がエントリーし、来場者の投票でグランプリを決定。5万5千人が熱狂する大祭典となった。翌2015年には神奈川ブロック大会と連携し、相模大野中央公園で開催。観客の一票が未来の名物を決めるS-1グランプリは相模原の食文化を掘り起こし、ふるさとの誇りを育む特別な時間となった。

2011

平成23年

● がんばろうNIPPON! 優しさまつりがんばろうNIPPON! 変化の時代の企業経営 森永卓郎氏
● 「地域のおとなシンポジウム」いま、子ども達のためにできること」山田宏氏基調講演、パネルディスカッション(山田氏、小宮満彦氏、柴田正隆氏)

第46代理事長
市村 努

2012

平成24年

● どげんかせんといかん」混乱の時代を生き抜く人間力」東国原英夫氏
● 桜まつり、輝け! 70万市民の心!! OMOIYARI コインアート
● 韓国釜山海雲台青年会議所交流30周年記念事業

第47代理事長
森 正雄

2013

平成25年

● 市民まつり、リサイクリン、被災地に桜を咲かせよう! OMOIYARI コインアート
● 韓国ホームステイ
● 相模原から発信 日韓友好の懸け橋」地域の先生事業
● 英霊に感謝する68年目の夏」終戦の日に靖国神社を参拝しよう」
● 境川クリーンアップ作戦

第48代理事長
荒俣 大

2014

平成26年

● 地域の魅力発信へ」知る」相模原、行こう大船渡」(市民桜まつり)
● 市制60周年事業流しそめん世界大会」リニア通で世界」に挑戦」
● さがみはら秋の大市民まつり」
● 金の卵発掘プロジェクト」
● 名古屋名物みそかつを生んだ矢場とん経営術&異業種交流会
● 第3回日韓交換ホームステイ事業
● 相模原からアニョンハセヨ」

第49代理事長
佐々木 亮一

2015

平成27年

● 「だから部下がついてこない!」できるリーダーになるための条件」嶋津良智氏
● 「明日から使えるメディア活用術&大名刺交換会」元フジテレビアナウンサーから学ぶ情報発信のコツ」福井謙一氏、雨宮和弘氏
● 「Positive Challenge!」
● 自分が変わればまちは変わる」鈴木啓之氏
● 創立50周年記念式典(記念講演 石原慎太郎氏、神奈川ブロック大会相模原大会
● 「S-1グランプリ」

第50代理事長
佐藤 匠

2006

平成18年

● 「動けば変わる、未来が変わる!」中村文昭氏
● 第33回市民桜まつりへの参画
● 人間空気椅子世界記録への挑戦
● 『未来を担う子ども達に贈る「夏休み特別企画」』ピタゴラマシーンに挑戦
● 「動けば変わる!」JCが変わる!」平将明君
● 協働運動「学」の夏休み」上映
● 衆議院第16区補欠選挙公開討論会

第41代理事長
鈴木 高広

2007

平成19年

● 社団法人相模原青年会議所の未来像
● まちを救うJCとして踏み出そう」
● 災害の事前対策と被災時の初期対応を知る」
● 相模原市長選挙公開討論会
● 地域主権推進のためのブログ事業

第42代理事長
小山 昌寿

2008

平成20年

● 相模原市にJリーグクラブを誕生させよう
● パイレーツオブサガミアン
● 3LOM合同事業 櫻井よしこ氏
● 政令市移行に向けての組織進化の検証と提言
● 「組織進化検証のまとめ」の提出

第43代理事長
古橋 裕一

2009

平成21年

● (社)大和青年会議所合同3月第一例会
● 「もっと日本が好きになる!」
● 「メディアが取り上げない歴史観」
● 「さがみ風っ子マラソン」日本記録保持者、片岡純子と走る! 日本縦断2000km
● 「先端企業の環境経営からビジネスチャンスをつかみ取れ」企業経営の差別化を図る」
● 「公開討論会」さがみはら市民協議会

第44代理事長
井上 誠士

2010

平成22年

● 45周年記念事業(記念講演 桂小金治氏)
● 45周年「こまのびの森プロジェクト」
● 第1回さがみ風っ子トレイルランニング
● 韓国釜山海雲台青年会議所式典参加

第45代理事長
小池 重憲

相愛

～「まちはもっと楽しくなる」をデザインしよう～

2016年 - 事業内容 -

- 1月 第一例会 通常総会
- 1月 第二例会 賀詞交歓会
- 2月 第一例会 奉祝相模原式典「伝えよう！自国の成り立ち建国記念の日」
- 2月 第二例会 デキる人の3つの条件～あなたのもてパッションをあげませんか？～
- 3月 第一例会 「一番会いたい人になる！人間力学」
- 4月 第一合同例会 相模の中心で相撲を叫ぶ～相模相撲相模原場所～
- 4月 第二例会 踏み出そう！政治への第一歩！～さがまち若者未来キャラバン2016～
- 5月 第一例会 ガースー流 笑いとセンスと発想力～常識を飛び越えた先に～
- 6月 第一例会 理事長候補者選挙
- 7月 第一例会 理事選挙立候補者 公開演説会
- 8月 第一例会 理事候補者選挙
- 9月 第一例会 シピックプライド～金の卵発掘プロジェクト～
- 9月 第二例会 よしもと漫才ワークショップ～WARAIの持つチカラ～
- 10月 第一例会 市長例会～相愛「まちはもっと楽しくなる」をデザインしよう～
- 11月 第一例会 走った41,000km!! 汗と、笑い、サポーターパワー
- 11月 第二例会 「踏み出そう！憲法への第一歩！」～さがまち若者未来キャラバン2016～
- 12月 第一例会 定期総会
- 12月 第二例会 卒業式（最後だヨ!!）全員集合

- 1月.LOM事業 京都会議2016～今年も初めは、また古都京都～
- 3月.LOM事業 努力・友情・相愛～相模原JC大運動会～
- 5月.LOM事業 「第7回さがみ風つとりレイルランニング」
- 6月.LOM事業 「踏み出そう！選挙への第一歩！」～さがまち若者未来キャラバン2016～
- 7月.LOM事業 第2回人間力学「MAKE・A・WISH」～夢のもつカ～
- 7月.連携参画事業 環境まつり
- 7月.連携参画事業 境川クリーンアップ作戦
- 7月.LOM事業 サマーコンファレンス2016～「アウフヘーベン」は日本語で？～
- 7月.LOM事業 相模原・多摩・町田3LOM合同事業
- 8月.LOM事業 復興支援 大船渡夏フェスタに行こう！
- 11月.LOM事業「相模原一受けたい授業」in亀ヶ池八幡宮



第51代理事長 飯田 美津雄

-主な出来事-

- 1月：マイナンバーカード本格運用開始
- 2月：シャープ、台湾の鴻海（ホンハイ）傘下に
- 3月：米大統領、88年ぶりにキューバ訪問
- 4月：熊本地震（M7.3、震度7）
- 5月：オバマ米大統領、広島平和記念公園訪問
- 6月：英EU離脱を決定
- 7月：津久井やまゆり園殺傷事件
- 8月：リオ五輪、過去最多41メダル獲得
- 9月：「こち亀」連載40年で完結
- 10月：大隈良典氏にノーベル医学生理学賞
- 11月：アメリカ大統領選でトランプ氏勝利
- 12月：日米首脳が真珠湾慰霊

2016

一年間の軌跡

「無理」の先を目指す理由が、ここにある

2016年度、第51代理事長を務めた飯田美津雄先輩

50周年の経験を力に変え、臆さぬ挑戦が次の10年を始動させた。

議論が街を動かし、若者が社会を動かす。



飯田 美津雄×編集部 インタビュー

編集部 周年直後の理事長としてのどのように臨まれたのですか？
飯田先輩 「LOMを強くすること」を考えていました。将来の中核を担う人財育成をするうえで、50周年事業やプロジェクト大会は機会の提供となりました。目の前の大きなプロジェクトをやり切ったことは、「皮剥ける」「決定的瞬間」に繋がる。そんな瞬間の連続をもって、組織を強くするため、どうやって人を育てていくか、ということを考えていました。

編集部 特に印象深かった事業は？
飯田先輩 やっぱ「政治・選挙・憲法」をより身近に感じることができたんじゃないかと思います。大学生や高校生と一緒に地域のゴミ拾いや分別活動をやったことも印象に残っています。ゴミ拾いを体験する人を増やして行くことが重要で、学生自身がゴミ拾いに参加することで意識を変えてもらう。ゴミ拾いする人を増やすではなく、「ゴミを捨てない人を増やす」。そんな価値観と一緒に共有できたことが大きな収穫でした。

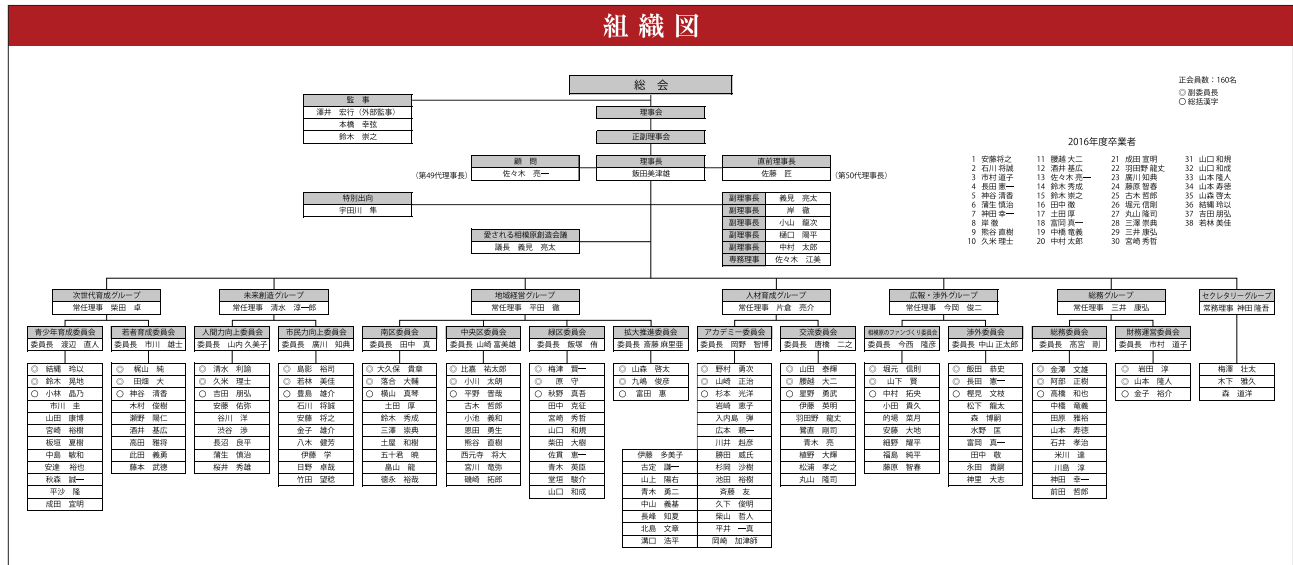
編集部 出向制度にも改革を？
飯田先輩 当時、出向って「できる人」が行くもので、自費も当たり前だった。でもそれだと偏るし、結局チャンスが限られてしまう。だから「出向支援積立金制度」を立ち上げて、全会員に年間1万2000円の積立を呼びかけました。誰もが立場に関係なく挑戦できる土壌をつくりたかったんです。僕自身サラリーマンでJCに入会

したからこそ平等にチャレンジできる仕組みの必要性を痛感していました。
編集部 理事長を目指した原動力はなんだったのでしょうか？
飯田先輩 初めて例会を見学したとき、当日の理事長の所信スピーチに衝撃を受けたんです。「こういう人になりたい」って心から思えた。それまで会社人として決まったレールを走っていたけど、JCに出会ってからは「どうすれば理事長になれるか」を逆算して動きました。時間もお金も工夫次第。そうやって人生のギアを入れ直してくれたのが、JCでした。

編集部 スローガンについてお伺いします。
この「相愛」は手書きですか？
飯田先輩 はい。こうやって見ると少し恥ずかしいですね。「相愛」は造語で相思相愛の「相愛」と相模原を愛するっていうのをかけたんですよ。愛される相模原を創造するという想いが込められています。それと、サブタイトルの「まちはもっと楽しくなる」をデザインしよう。やっぱり、ワクワクドキドキすることをやっていきたい、それをイメージして具現化していくのが我々青年で、能動的に行動することが大切だということを理事長としてみんなに訴えたかった。

編集部 現役メンバーへのメッセージをお願いします。
飯田先輩 いまは、僕たちの時代よりずっと多様で、正解がない時代。でもだからこそ、自分が「これが必要だ」と信じたことに挑戦してほしいです。

「できない理由」はいつでも見つかる。だからこそ、「やる」と決めた人間が、未来を動かす。信念と情熱で組織を引っ張り、次世代に挑戦の場をのこした飯田美津雄先輩の歩みは、誰かの人生に再びエンジンをかける“きっかけ”になる。



-主な出来事-

- 1月：トランプ氏が米大統領に就任
- 2月：プレミアムフライデー開始
- 3月：韓国セウォル号引き揚げ開始
- 4月：フィギュアスケートの
浅田真央選手引退
- 5月：仏大統領にマクロン氏
史上最年少39歳
- 6月：将棋・藤井四段、前人未踏の29連勝
- 7月：都議選で「都民ファーストの会」が
第一党に躍進
- 8月：東京医大不正入試が問題に
- 9月：陸上男子100m、
桐生選手が9秒98の快挙
- 10月：築地市場、83年の歴史に幕
- 11月：トランプ米大統領が初来日
- 12月：将棋・羽生氏が史上初の永世7冠に

2017年度、第52代理事長を務めた義見亮太先輩。最初は「自分でいいのか」という戸惑いから始まったが、悩み抜いた末“責任”という覚悟。その一歩は、自らの殻を破り、仲間と共に未来をつ

穏やかな語り口の奥に宿る、まっすぐな眼差し。彼の歩みから見える、



義見 亮太×編集部
インタビュー

編集部 理事長を引き受けたとき、どんな気持ちでしたか？

義見先輩 率直に言って、「本当に自分でもいいのかな」という不安が大きかったです。でも、迷ってはかりの自分がいたからこそ、ある瞬間に「やるしかない」と腹が括れた。そのとき、スツと目の前が開けた気がしました。「自分のため」ではなく、「この組織の未来のため」。そう思えた瞬間、理事長という立場に意味が宿った気がします。

編集部 理事長として、どんなことを大事にされていましたか？

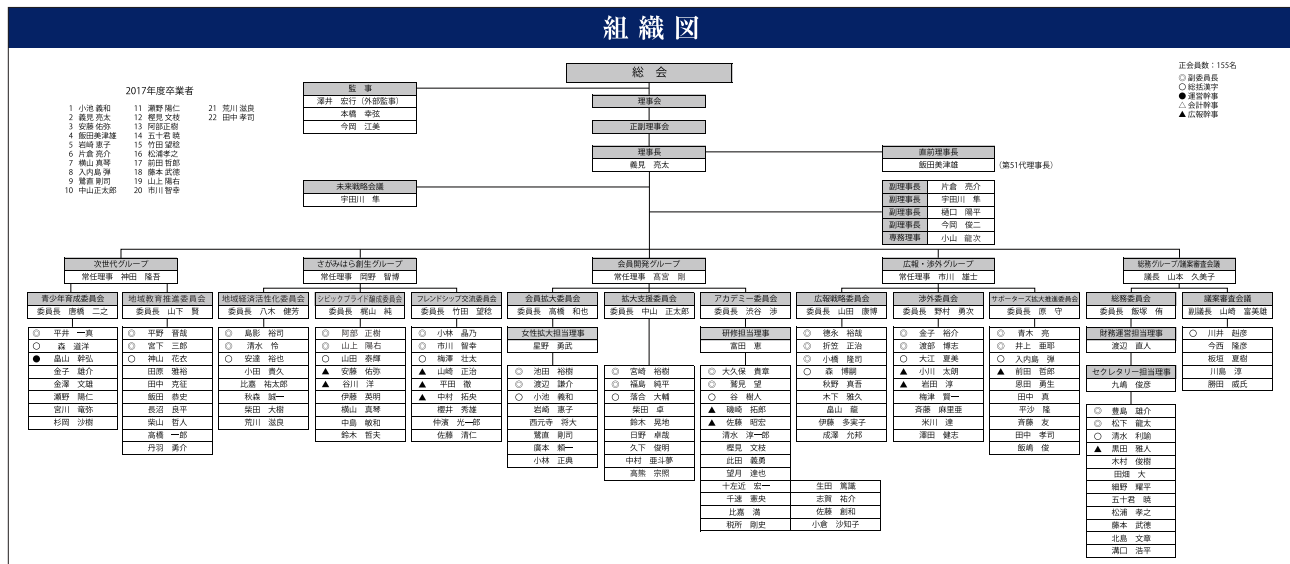
義見先輩 「誰ひとり置いていかない」——これがずっと軸でした。僕は意見を聞くのが好きなんです。だからこそ、会議では時間がかかっても、みんなの声をちゃんと聞くようにしていました。たとえ自分に確信があっても、押しつけたくなかった。それより、みんなが納得して同じ方向を向いてくれる方が、ずっと強いと思っていました。

編集部 行政との関係構築にも尽力されていましたね。

義見先輩 はい。もっと相模原市としてかっつなりたいと思って、市役所に何度も足を運びました。「若者と地域をつなぐ事業を一緒にやりませんか？」って、熱を込めて何度も話しました。最初は正直、相手にされないことも多かったんです。でも、諦めずに対話を重ねていくうちに信頼が生まれて、最終的には学生と相模原市が連携するプロモーション事業が形になりました。あれは、自分の中でもすごく誇らしいチャレンジでした。

編集部 現役メンバーに向けて、伝えたことはありますか？

義見先輩 「自信がなくても、大丈夫」。これを伝えたいですね。僕も最初は不安だ



ＪＣは、そんな「本気の挑戦」ができる場所。だからこそ、ぜひ自分の可能性を信じて進んでほしい。たとえ今は見えなくても、前に進めばきっと景色は変わります。

自信がなくてもいい。迷っていても構わない。それでも前に進もうとするあなたを、義見亮太先輩の言葉がそっと押してくれる。

「言われたら断れない」その一言が、人生を変えた

2018年度、相模原青年会議所第53代理事長を務めた小山龍次先輩。
人付き合いが得意だったわけでもない。むしろ団体に入るのは苦手なタイプだったという。
それでも彼は、気がつけば組織のトップに立ち、次代を切り拓くリーダーとして走り抜けていた。



小山龍次×編集部 インタビュー

編集部 JCに入った当初は、あまり乗り気ではなかったそうですね？
小山先輩 全然(笑)。人前に出るのも苦手だったし、そもそも団体つてのが肌に合わないと思っていました。でも、ある日、先輩に「来ないなら迎えに行くよ」って言われて、断れなくなって。そこからが全部の始まりです。
編集部 初参加の印象はどうでしたか？
小山先輩 例会に出て、よく分からないまま市長の話聞いて…難しかったけれど、懇親会で「どうだった？」って聞かれて、正直にあれこれ言ったら、「それ、いい意見だね」って受け入れてくれたんです。あの一言で、「ここにいていいんだ」って思えましたね。
編集部 そこから少しずつ関わりが深くなっていったと？
小山先輩 はい。自分の意見を受け入れてくれる場所って、なかなかないじゃないですか。だから、頼まれたことは断らずにやってみようと思ったんです。気がついてから理事長まで来てました(笑)。
編集部 国際では米軍基地との交流もありましたね。
小山先輩 僕、学生時代に海外で孤独な留学生生活を送ってたんです。今思えば、もつと地域に関わっていたら良かったなと。その想いから、相模原にもそんな人がいるかもしれないと感じて。相模原市の窓口が難しかったので、直接米軍基地にアプローチして座間キャンプの方と繋がり、交流のきっかけが生まれました。
編集部 理事長の年、テーマは「New Frontier」ひとり一人が、このまちの開拓者たれ！でした。
小山先輩 経済・国際・教育の3本柱を立てて、それぞれの委員会に事業を設計してもらいました。経済では「本業を通じて

た社会貢献」を掲げて、たとえば物流業なら交通安全教室、金融業ならお金の教育など、仕事の延長で社会とつながれる活動を広めました。ボランティアって構えがちだけど、仕事を活かすほうが継続しやすいって。
編集部 教育分野の活動も、印象的です。
小山先輩 子どもの居場所づくりをテーマに、公民館を活用して週末に遊べる空間をつくりました。毎月場所を変えて実施して、チラシも配ったり。あの頃って、まだ今ほど貧困や孤立の問題が表面化してなかったけど、子どもたちの笑顔を見て、「これは意味がある」と確信できましたね。
編集部 出向の経験についても教えてください。
小山先輩 出向で全国のメンバーに出会って、改めて相模原の恵まれた環境を実感しました。例えば地方のメンバーは、飛行機や船で会議に来る人もいます。自分たちは日帰りで行ける。それを当たり前に思わないようにしようと強く思いましたね。
編集部 そんな経験を経て、現役メンバーに伝えたいことは？
小山先輩 「断らないこと」かな。頼まれたら、とりあえずやってみる。最初は面倒でも、やってみたら案外面白いし、誰かの役に立っていたりする。40歳までしかいられないんだったら、やり切った方が絶対いい。経験値も得られるし、いつか全部が繋がって、思いがけない景色が見えると思いますよ。

メンバーの皆さんひとり一人が素晴らしい相模原の魅力を開拓していきませんか！
小山龍次先輩の物語は、誰にでも訪れる「きっかけ」が、やがて人生を動かす「挑戦」に変わるということを教えてくれる。断れなかった1回のYESが、自分らしい未来を切り拓いた——その実感のこもった言葉が、次代の一步を後押しする。

New Frontier ニューフロンティア

～ひとり一人が、このまちの開拓者たれ！～

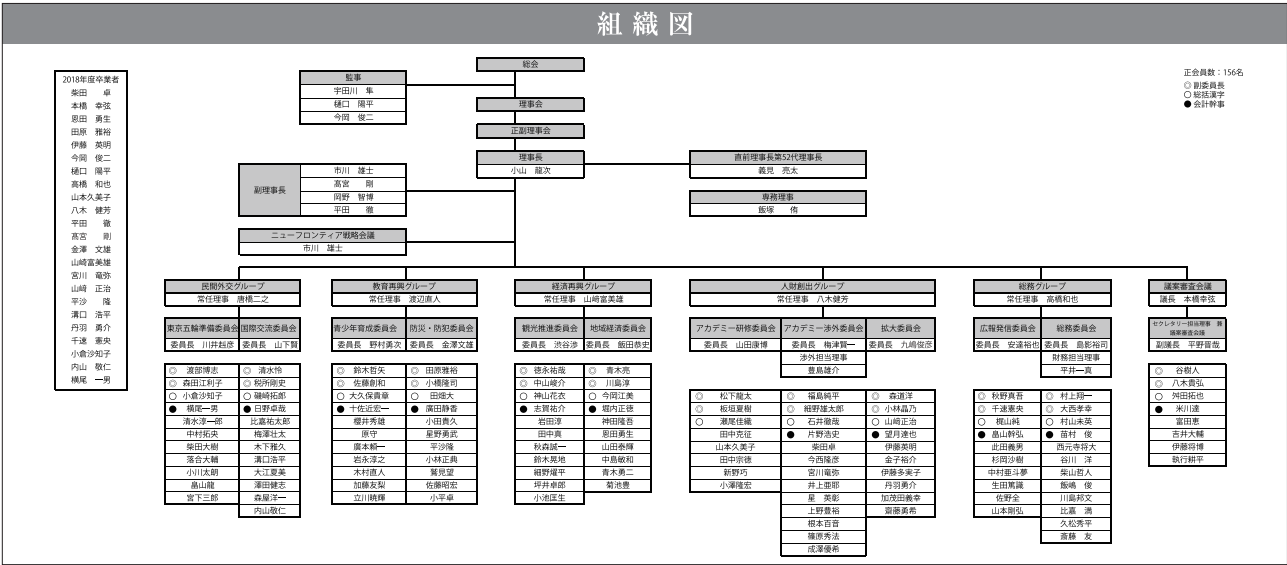


第53代理事長 小山 龍次

-主な出来事-

- 1月：箱根駅伝、青山学院大学が4連覇
- 2月：平壤五輪で日本は冬季最多13メダル獲得
- 3月：森友学園をめぐる財務相決裁文書改ざんで国会紛糾
- 4月：米英仏、シリアに軍事攻撃
- 5月：カンヌ国際映画祭、映画「万引き家族」が最高賞
- 6月：グアテマラで火山噴火
- 7月：FIFAワールドカップロシア大会日本は16強入り
- 8月：競泳・池江璃花子選手がアジア大会6冠
- 9月：安室奈美恵さん引退
- 10月：本庶氏にノーベル医学生理学賞
- 11月：日産・ゴーン会長を逮捕
- 12月：流行語大賞「そだねー」

■1月.LOM事業 京都会議2018～和を開拓した京都のニューフロンティアから学ぶ～ ■3月.LOM事業 ビジネスマッチングさがみはらコミュニティ～春の出会い～ ■4月.LOM事業 相模原・多摩・町田3LOM合同事業 ■7月.LOM事業 (サマーコンフェレンス2018) ■7月.LOM事業 第66回関東地区大会参加～俺等が行かなきゃ誰が行く～ ■9月.LOM事業 第46回神奈川ブロック大会大和大会 ■10月.LOM事業 「出向者報告」日本横断ウルトラクイズ ■10月.LOM事業 第67回全国大会宮崎大会～BORN TO BE NEW FRONTIER～



Take Action!

鍵が導く
可能性の
景色



- 主な出来事 -

- 1月：レスリング・吉田沙保里選手が
引退表明
- 2月：探査機はやぶさ2、
「りゅうぐう」着陸成功
- 3月：イチロー引退表明
日米通算4367安打
- 4月：ノートルダム大聖堂で大火災
- 5月：「令和」に改元
- 6月：G20大阪サミット開催
- 7月：京都アニメーション放火殺人事件
- 8月：高速道路で「あおり運転」、男を逮捕
- 9月：ラグビーワールドカップ、
日本8強入り
- 10月：消費税10%スタート
- 11月：野球・プレミア12、侍ジャパンが
初優勝
- 12月：パリ協定ルール、
合意見送り（COP25）

2019年-事業内容-

- 1月 第一例会 賀詞交歓会
2月 第一例会 通常総会
3月 第一例会 知らないともったいない！～中小企業×SDGs～
4月 第一例会 『COME ON リニアで相模原』～2027人のメッセージ～
5月 第一例会 令和元年相模大型カルタ合戦～ふるさとの誇りを読み上げよう～
5月 第二例会 バカでも出来る爆笑「行動力」
6月 第一例会 理事長候補者選挙
7月 第一例会 T.R.Yトライ!! 関東地区大会熊谷大会～Road to 相模原2020～
7月 第二例会 第一回相模原アカデミー「一騎当千JAYCEEプログラム」
8月 第一例会 理事候補者選挙
9月 第一例会 「さがみはら大作戦～未来を創るSDGsフェスティバル～」
10月 第一例会 もっと身近な女性活躍～企業と社会をポジティブチェンジ～
10月 第二例会 市長例会「相模原経済人会議」
11月 第一例会 卒業式～鍵を手にした者たちの道標～
12月 第一例会 定期総会

■3月.LOM事業「公開討論会」 ■4月.3LOM合同事業 ■6月.LOM事業「Form a Scrum 相模原団結式」 ■7月.LOM事業（サマーコンファレンス2019） ■9月.LOM事業 神奈川ブロック大会横須賀大会 ～Lead to future of SAGAMIHARA～ ■11月.LOM事業「出向者報告会～チームで聞き出せ！掘り出せ！！探り出せ！！出向のヒミツ～」 ■年間推進 数分が起こす奇跡運動「全世界を笑顔に！」



宇田川 隼 × 編集部
インタビュー

象に残っていることはありますか？

宇田川先輩 とにかく、「誰よりも動き続ける」それだけでした。スローガンも「Take Action!」。もう、止まったら終わるなって感覚で。

地方創生やSDGs、人財育成……いろいろんな事業をやりましたが、本当にやりたかったのは「誰かのスイッチを入れること」だったんです。

編集部 スイッチ、ですか？

宇田川先輩 はい。人って、何かに心を動かされないと、本気にならないじゃないですか。でも、自分自身が苦しんで、迷って、動いて、その過程でしか確信って生まれないんですよ。だから、まずは自分が全力で動く。それが誰かに伝播してくれば……それで十分だと思ってました。

編集部 その後、日本JICで会務担当常任理事も務められました。出向で得たものは何だったのでしょうか？

宇田川先輩 一番は「主語が変わった」ことですね。JICですと「相模原のため」に」と言ってきました。でも、出向すると「我が国のために」「全国の中小企業のために」と、スケールが一気に広がる。

編集部 確かに、スケールが違いますね。

宇田川先輩 行政機関や大企業との交渉の場に立つと、自分の発言や判断が社会を動かす「責任」になる。それが重いけれど、同時に最高の学びだった。出向は「誰よりも速く」行って、見た景色を仲間に持ち帰る旅だと、僕は思っています。

編集部 ポジティブチェンジという言葉が印象的です。宇田川先輩の言葉で、それをどう捉えていますか？

宇田川先輩 JICの価値って、心の扉をどれだけ開けられるかなんですよ。中から少し開けた扉越しじゃ、ほんの一部の景



色しか見えない。でも、本気で心を開いて扉の外に出た瞬間に、360度の世界が見えるんです。あの感覚は、50周年のときに初めて味わいました。

編集部 その時、JCとしての扉を開く鍵を見つけたんですか？

宇田川先輩 そう、まさにそれ。あの日、壇上から見た景色は一生忘れません。タスクをこなす存在じゃなくて、本気でこの組織と仲間と向き合った瞬間。心の扉が、ようやく開いたと思いました。

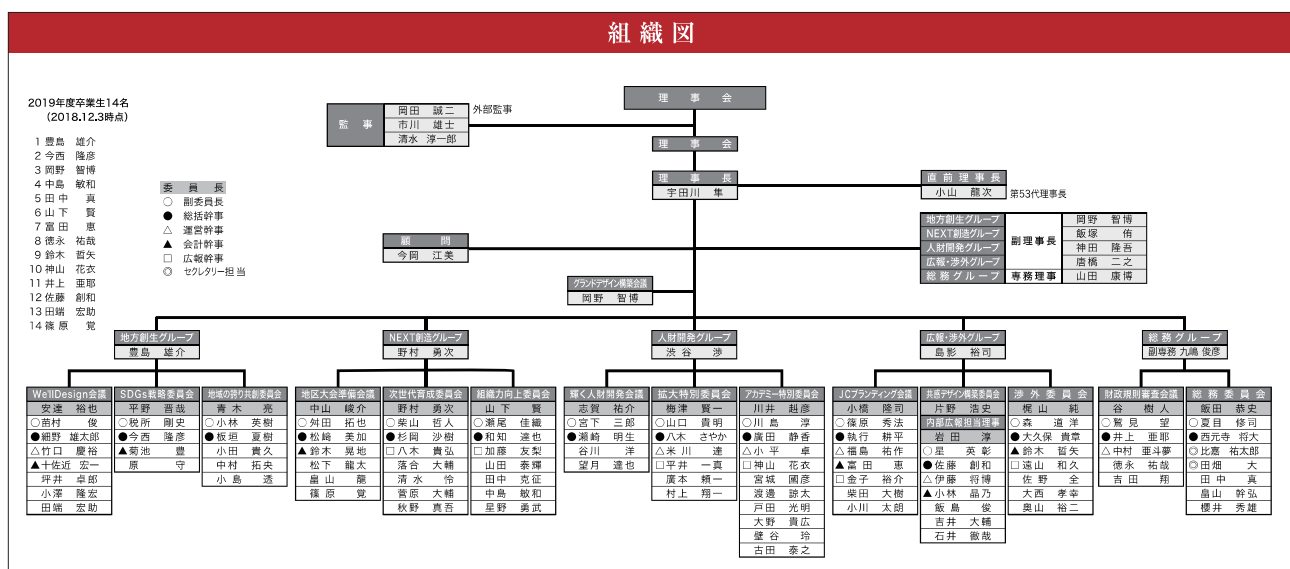
編集部 最後に、今の現役メンバーに伝えたいことがあれば、ぜひお願いします。

宇田川先輩 JCってどれだけ「本気になれるか」がすべてです。文字じゃ伝わらない。聞いただけじゃ変わらない。自分で飛び込んで、苦しんで、もがいて、ようやく何かが変わる。それがポジティブチェンジなんです。

現役の皆さんには、とにかく行動してほしい。本気でやれば、絶対に見たことのない景色が待ってますから。

宇田川隼先輩が語る言葉の一つひとつは、経験に裏打ちされた「生きた教訓」だ。

心の扉を開けたその先に、JCの本質がある。



市川雄士×編集部
インタビュー

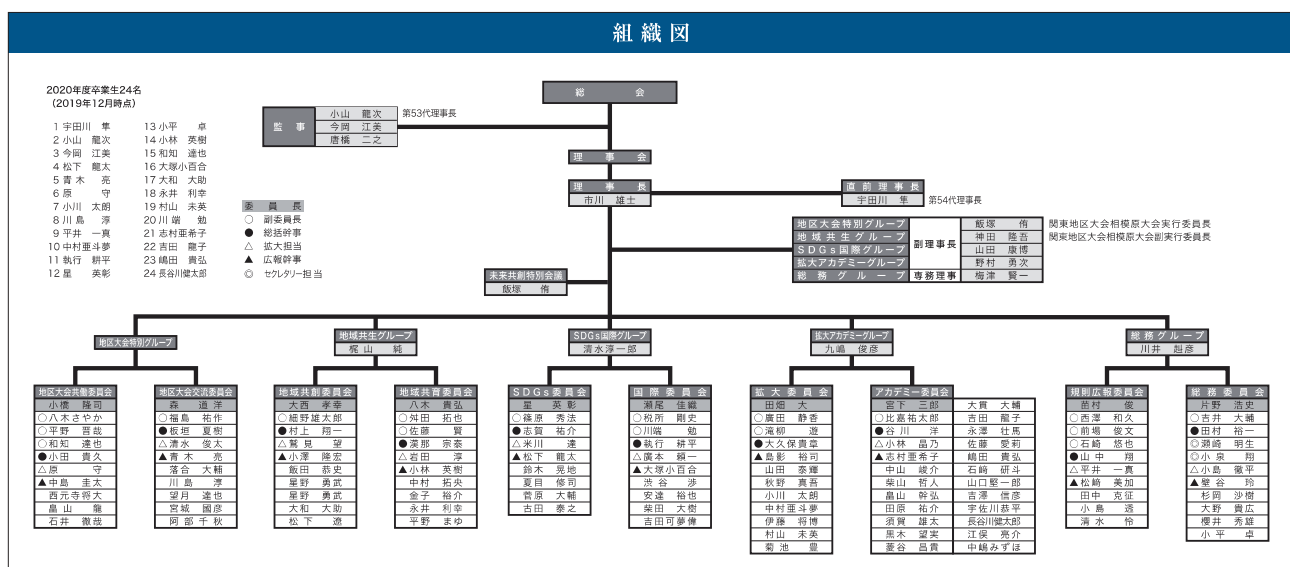
市川雄士先輩の歩みは、どんなに制限された状況でも“想いを貫くこと”が未来をつくると、そっと背中を押してくれる。



-主な出来事-

不可能を**可能**にする リーダー
～心がつながり笑顔が溢れる相模原の共創～

■1月.LOM事業 京都会議2020〜古都京都に行こう〜 ■5月.LOM事業 働き方改革〜これからの時代を勝ち抜くために〜 ■7月.LOM事業 「ニューノーマル時代の到来」今だからこそ求められるリーダーとは ■9月.LOM事業 全国大会札幌大会 ■10月.LOM事業 3LOM合同事業



A portrait of a middle-aged man with dark, wavy hair and glasses. He is wearing a dark pinstriped suit jacket, a white shirt, and a brown patterned tie. He is standing in front of a light-colored wooden wall.

-主な出来事-

- 1月：1都3県に緊急事態宣言（新型コロナウイルス）
- 2月：医療従事者ワクチン接種始まる（新型コロナウイルス）
- 3月：緊急事態宣言を全面解除（新型コロナウイルス）
- 4月：3度目の緊急事態宣言（新型コロナウイルス）
- 5月：ガザ衝突、停戦で合意
- 6月：上野動物園のパンダ「シンシン」が双子を出産
- 7月：東京五輪開幕
日本は史上最多58メダル獲得
- 8月：デルタ株感染急拡大（新型コロナウイルス）
- 9月：デジタル庁発足
- 10月：菅内閣総辞職・衆議院解散
- 11月：オミクロン株、国内初確認（新型コロナウイルス）
- 12月：前沢氏、民間人初のISS滞在

運動を止めない

飯塚 侑 × 編集部



多岐の受け入れ態勢づくりによる

雇用上手

～うちに雇用よ～

社会社会の発展

JCI
Employment



60th Anniversary 35

2022

願うからこそ、厳しくできる

2022年度、第57代理事長を務めた梅津賢一先輩。

相模原青年会議所の再始動を担い、コロナで止まった歯車をもう一度動かす。
人を育て、地域に還元していく。その根幹にあったのは、ただ一つの言葉 Wish

梅津 賢一 × 編集部 インタビュー



編集部 スローガン「Wish」に込めた思いを聞かせてください。
梅津先輩 僕らは誰よりも「家族・会社・地域の幸せを願う」ということを、芯に置きたかったんです。幸せを願うからこそ優しくできるし、成長を願うからこそ厳しくできる。だから、諦めずに行動する人を育てたい、という発想になった。僕にとっては、その「願う」ということが意識変革の原点でした。

編集部 2022年は再始動の年だったかと思いますが、組織運営でまず取り組んだことは何ですか？
梅津先輩 オンライン続きで、みんな動く感覚を忘れていたんですよね。そこで、アカデミーとは別に「人材開発特別会議」を立ち上げて、各委員会のスタッフを集めて、徹底的に一年を通して底上げする場を作りました。翌年度に現場で走れる人、を意図して育てていった感じです。

編集部 教育分野は特にこだわりがあったそうですね。
梅津先輩 名所や名産が少ない相模原にとって、教育にこそチャンスがあると思っていました。「学校では学べない体験をJCとして届けて、普段の教室での学びに命を吹き込む」こと。例えば『さが☆つく』では、子ども達にとにかく自ら考えながら経験をさせることを大事にしました。将来のキャリアに繋がる原体験って、机の上だけでは生まれにくいんですよ。米軍座間キャンプの方々の交流にもアプローチして、異文化や多言語への興味などにもスイッチを入れたかった。

編集部 経済分野の事業も印象的でした。
梅津先輩 相模原は、都市部のすぐ近くに農地もあるという特徴がある。だから堆肥づくり(コンポスト)やSDGs給食と

いったサーキュラーエコノミーの取り組みは相性がいいと思って、実際にやってみたんです。ただ、現場で手応えはあるけれど、モデル化や回収設計は別の勝負どころで、ビジネスとしてはまだまだ課題があると感じました。

編集部 人材育成について、もう少し踏み込んでお聞きしたいです。

梅津先輩 「人をつくる」って、育てる側の覚悟だと思っています。みんな家庭や仕事もありながらJC活動にも時間を使うのは、きっと自らの成長も求めているはず。でも、成長するってそんなに簡単なものではない。期待するなら、ちゃんと向き合っている、時には厳しく言う。その分、次もやれる環境と役割を用意してあげる。それが成長を願うということ。さっき話した人材開発特別会議は、まさに「やってみる」を増やす機会でした。

編集部 最後に、現役メンバーへ。
梅津先輩 JCでは、仕事も価値観も違う人達と出会い、ともに活動することで認め合うことができます。自分にはできない、今はできるような状態じゃない。と、甘えた私に対して厳しい言葉をかけ、辛い時には「ここの業務は何とかするから大丈夫。ただ、誰かが代わりにやっていることだけは忘れないでほしい。」と、優しい言葉をかけてくれる仲間がいました。だから私も誰かのためにやりたいと、一歩を踏み出すきっかけをもらったんです。

うまくいかない日があっても、挑戦する手を止めなければ、必ず成長し、次に繋がる。人との出会いや、自分や周りの人生をより良くするために行動する機会がJCには溢れています。皆さん一人ひとりの成長が、未来を変える力となることを願っています。

人の成長を心から願う。だから厳しくでき、そして優しくできる。

手法ではなく、一人ひとりの成長に正面から向き合い続けた一年。その願いが、未来を変えていく。

Wish

人をつくる、
未来を変える



第57代理事長 梅津 賢一

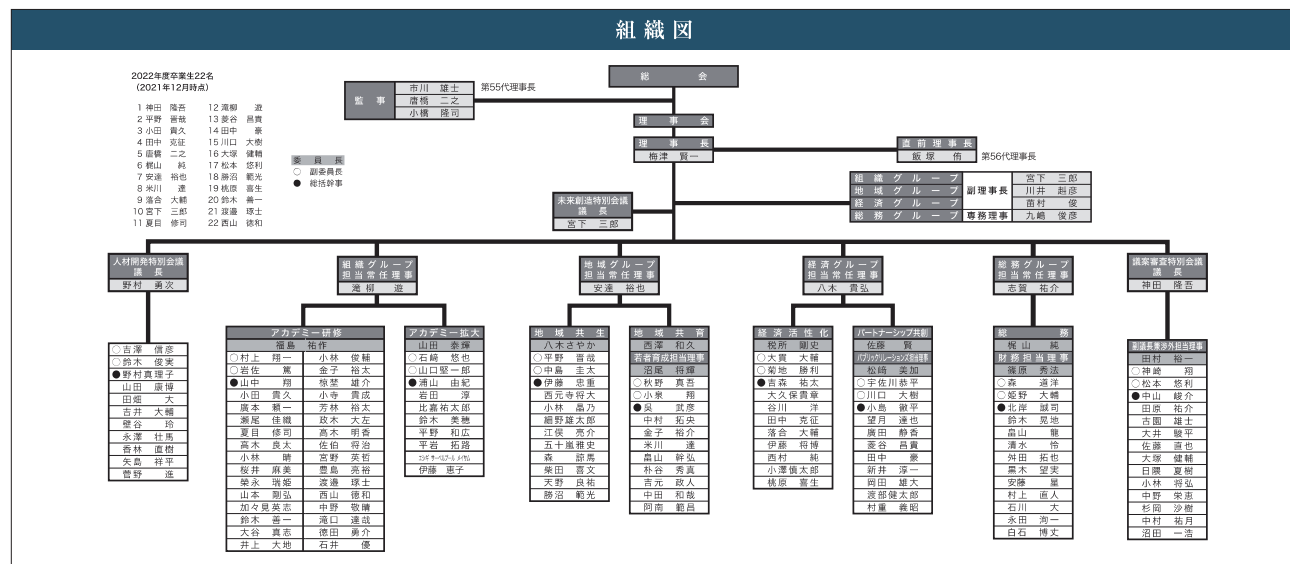
-主な出来事-

- 1月：慶応大学、脊髄損傷にiPS初移植
- 2月：ロシア軍がウクライナ侵攻開始
2022年北京オリンピック開幕
- 3月：映画「ドライブ・マイ・カー」
米アカデミー賞受賞
- 4月：成人年齢が18歳に引き下げ
- 5月：沖縄本土復帰50年
- 6月：最高裁、原発事故における国の責任否定
- 7月：安倍元首相銃撃事件
- 8月：新型コロナ全数把握見直し
- 9月：エリザベス英女王国葬
- 10月：物価高騰、商品値上げ相次ぐ
- 11月：FIFAワールドカップカタール大会開催
- 12月：G20サミット 露避難の首脳宣言採択

2022年-事業内容-

- 1月 第一例会 賀詞交歓会～Wish 人をつくる、未来を変える～
- 2月 第一例会 通常総会
- 3月 第一例会 「地域課題×経営戦略」MOTTAINAI2.0大展示会！
- 4月 第一例会 「市民まつり」さがみんからの指令！市内の桜をたんのうせよ！
市民72万人で桜を咲かせましょう！
- 5月 第一例会 第1回サガゲー世界大会～スポーツのまちサガミハラを目指して～
- 6月 第一例会 理事長候補者選挙
- 7月 第一例会 ROLAND対談会「才能がないのも一つの才能」
- 8月 第一例会 理事候補者選挙「切り開け！あなたが未来の主人公！」
- 9月 第一例会 スマイルフェス2022～人をつくる、未来を変える～
- 10月 第一例会 市長例会「Change!～経済×SDGs～」
- 11月 第一例会 卒業式～未来への始球式～
- 12月 第一例会 定期総会

■3月.LOM事業「相模原パワフル大作戦～勝ち続けるためのチーム作り～」 ■5月.LOM事業 JCI ASPAC 堺高石大会 ■6月.3LOM合同事業 ■7月.LOM事業 関東地区大会「荏崎北杜大会」 ■7月.LOM事業(サマコン) ■8月.LOM事業「面白いほど「人」が変わり「組織」が活性化するチームビルディング!!」 ■9月.LOM事業 神奈川ブロック大会「平塚大会」 ■10月.LOM事業・第71回全国大会おいた大会～みんなでお祝いしようぜ～ ■年間推進 指一本で出来る共生社会 / 『さが☆つく』～未来に差がつく大作戦～/Project Beyond Zero～ゴミが売れちゃう新たな経済～/学校給食でSDGs～気づきが生み出す持続可能な未来～/リーダー開発プログラム BE AMBITIOUS



縁

～人の繋がりで笑顔溢れる相模原～

2023年-事業内容-

- 1月 第一例会 賀詞交歓会「縁～人の繋がりで笑顔溢れる相模原～」
- 2月 第一例会 通常総会
- 3月 第一例会 サークュラーエコノミーのススメ～行動を起こすはじめての一步～
- 4月 第一例会 『夢の叶え方』～歩み出せないキミへ～
- 5月 第一例会 美しい新緑と友情芽吹く若葉まつり
～虹色のアートで子ども達の夢を描こう～
- 6月 第一例会 理事長候補者選挙～Next Generation～
- 7月 第一例会 さがみはらジュニアハイスchool議会2023
- 8月 第一例会 理事候補者選挙～過去から2024のキミへ～
- 9月 第一例会 2023年第51回神奈川ブロック大会藤沢大会
「笑顔溢れる未来あすのために、藤沢大会へ！」
- 9月 第二例会 Autumn gourmet fes2023
～子どもの発想グルメと夢の職業が相模原に～
- 10月 第一例会 笑顔溢れる相模原～Make a SAGA vision～
- 11月 第一例会 卒業例会 ～響け言魂 次の世代へ～
- 12月 第一例会 定期総会

■1月.LOM事業 京都会議「いざ、相模の国から京都へ出陣！」 ■3月.LOM事業 「さがみはらの未来を考える」公開討論会 ■4月.LOM事業 (家族交流会)相模原JC Familyフェスタin相模補給廠～「えっ?日曜日もJC行くの?」「いや、今日はアメリカに行くから一緒に行こう」 ■5月.LOM事業 ASPACジャカルタ大会 ■6月.LOM事業 3LOM合同事業「青年会議所の無限の可能性」 ■7月.LOM事業 (サマーコンフェレンス2023) ■10月.LOM事業 次世代への架け橋 全国大会 東京大会 ■11月.LOM事業 世界会議「1万9キロ先のチューリッヒで!」次世代への架け橋、全国大会 東京大会 ■アカデミー年間育成「NO LIMIT～限界を超える挑戦への道～/人が繋がる優しいまち!グリーンワールド推進事業 Sustainable City ～住み続けたいまち南区～/未来へ向けた発信地～サステナブルなまち中央区へ～



第58代理事長 野村 勇次

-主な出来事-

- 1月：中国「ゼロコロナ」政策終了
- 2月：トルコ・シリア大地震
- 3月：野球・WBC 日本が14年ぶり優勝
- 4月：文科省調査により小中学校教員の過剰労働が明らかに
- 5月：新型コロナが「5類」へ移行
- 6月：LGBT理解増進法成立
- 7月：英国がTPPに加盟
- 8月：福島第一原発の処理水放出開始
- 9月：ゼレンスキー大統領が
国選総会に出席
- 10月：消費税のインボイス制度開始
- 11月：各地で熊被害
- 12月：日本製鉄が米USスチール社の買収発表

2023

「縁が、人を動かす」

2023年度、第58代理事長を務めた野村勇次先輩。
掲げたスローガンは「縁～人の繋がりで笑顔溢れる相模原～」。
その一年に込めた想いを語ってもらった。



野村 勇次×編集部 インタビュー

編集部 理事長の1年を振り返って、まず感じることはなんですか？
野村先輩 正直、反省も多い一年でした。「もっとできたはずだ」と思うことは山ほどあります。それでも最後までやり切れたのは、やっぱり仲間の支えやメンバーの存在があったから。苦しい局面ほど、人との繋がりが推進力になる。それを実感した一年でした。
編集部 組織をまとめるうえで、どんなことを意識していましたか？
野村先輩 私は大きな声で引っ張るタイプではありません。だからこそ任せる。ただし任せっぱなしにはしない。来ない人には自分から会いに行き、「これはあなたの役割だ」と腹を割って伝える。役割を細かく分け、得意な人にタスクと権限を渡し、必要なときは寄り添って一緒に走る。「信じて任せる」と「寄り添って支える」のバランスを大切にしました。それと、これは強く言いたいのですが「自分たちが楽しんでいないのに、楽しい事業なんてできない。もちろん大変なこともある。でも、その大変さを楽しめるくらいじゃないと。」この感覚は、運営の芯でした。
編集部 スローガンには、どんな想いを込めましたか？
野村先輩 縁は偶然ではなく、掴みに行くものだと思っています。人と人の関係が力を生み、プレッシャーを推進力に変える。繋がりが広がるほど挑戦の数は増え、その成果が笑顔の数を増やします。だからこそ「縁」を掲げました。出合いを大切にし、繋がりを育てれば、自然と笑顔が生まれ、街の未来は変わっていく。そんな確信を込めています。
編集部 印象に残った出来事を挙げる

なら？

野村先輩 複数の事業が同時並行で進む中、役割分担と事前準備を徹底し、必要なときは即座に段取りを組み替えて合意形成に持ち込んだ場面が何度もありました。もう一つ挙げるなら、拡大を最優先に置き、全体に「庄」をかけることをあえてやったこと。数字を掲げ、達成までやり切る。その姿勢を徹底した一年でした。大変でしたが、振り返れば楽しかったと言える時間です。

編集部 現役メンバーに伝えたいことは？
野村先輩 やるなら本気で。「やっつてふう」ではなく、覚悟を持ってやり切る。JCを本気でやれない人は、何も出来ないよ。JCって自分へのチャレンジであって、それから自分の大切な人のためのチャレンジになるんだけど、それって日常を変えることになるから簡単なことじゃないんだよね。でもJCが本気を出せば、相模原もそうだし国も良くなるんだと思うよ。

そしてもう一つ。自分たちが楽しくないのに、楽しい事業は生まれない。大変さすら楽しむくらいでちょうどいい。本気と楽しさが新たな縁を呼び、その縁が次の挑戦を連れてくる。そしてあなたの一歩が、必ず誰かの背中を押すことに繋がります。



野村勇次先輩の一年は、まさにスローガンどおり「縁」の大切さを行動で伝えた一年だった。任せる姿勢と誠実な寄り添い、そして「やるなら本気で」という強いメッセージ。その言葉は、これからの世代が人との繋がりを信じて前へ進むための確かな指針になる。

最後は人 迷いも葛藤も、決断に変えていく

2024年度、第59代理事長を務めた九嶋俊彦直前理事長。
コロナ禍が明け、組織も人も「次の一步」を求められた1年。経済への強い思いを
出発点にしながら、最終的に人を信じる道を選んだその歩みを聞いた。

九嶋 俊彦 × 編集部 インタビュー



編集部 理事長として、最初に思い描いたテーマは何ですか？
九嶋直前 私は「経済」を軸にしたいと考えていました。地域の未来を支える大きな力は、やはり経済にある。企業が元気になるれば、地域全体が活性化します。その確信があったからです。
編集部 では、なぜ経済一本ではなかったのですか？
九嶋直前 理事長は自分の理想を貫くだけでなく、組織全体の未来を考えなければなりません。経済一本に絞れば、目立つ取り組みはできても、他の分野を広げる余地がなくなる。だからこそ「経済」と「共生」を組み合わせ、委員会同士が横のつながりを持ちながら取り組む形に決断しました。理想を少し強いることにはなりませんが、組織を次につなぐためには必要な決断だったと思っています。
編集部 事業設計で最も悩んだことは？
九嶋直前 「一度の事業で強い印象を残すか」「年間を通じて積み上げるか」。この二択で本当に悩みました。最終的に選んだのは年間推進です。単発で大きな成果を狙う道もありましたが、私は積み重ねる方がメンバーの経験になり、地域に残るものも大きいと考えました。苦労も多かったですが、あえて厳しい道を選んだことに意味があったと思っています。
編集部 所信の中で、特に強い思いは？
九嶋直前 「相模原に來ればなんとなかなる」そう思えるまちをつくりたかったです。外国人でも、障がいのある方でも、誰もが受け入れられる。本気でそこに取り組み、相模原は全国で先駆けて挑戦できる。その未来を本気で描いていました。
編集部 いまの現役に伝えたいことは？
九嶋直前 迷うことがあっても構いません。



葛藤しながらも一歩踏み出すことに価値があります。私自身、決して完璧ではありませんでしたが、決断を重ねて進んだからこそ見える景色がありました。そして、私は良く「きみならできる」とみんなに声をかけてきました。それは「この言葉に背中を押され、今の私に繋がっていると考えているからです。自分自身の力を信じ切ることができなくても、あなたの隣には、必ず支えてくれる仲間や家族がいます。勇気を出し、踏み出す一歩が未来への可能性を広げる最大の原動力となります。」
人やまちと真剣に向き合い相模原を笑顔で溢れるまちにしていきたいでしょう！
「きみたちなら必ずできる」

迷いや葛藤を受け止め、それでも人を信じて進む姿。「きみならできる」という言葉に込められた信頼こそ、
九嶋俊彦直前理事長らしさであり、仲間の背中を押し続ける最大の力である。

共動共創

心が導く笑顔溢れる相模原



第59代理事長 九嶋 俊彦

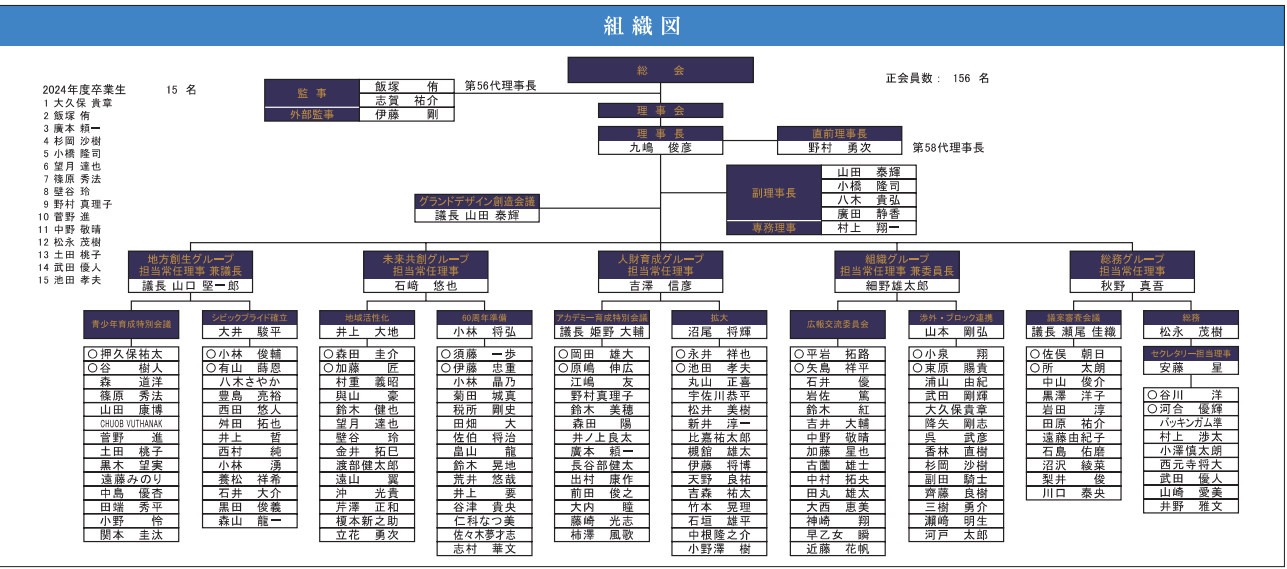
-主な出来事-

- 1月：石川・能登で震度7、津波被害
- 2月：新型H3ロケット打ち上げ成功
- 3月：日銀、マイナス金利解除
- 4月：台湾で大地震（M7.7）
- 5月：改正民法成立、「共同親権」導入へ
- 6月：東京ディズニーシーの新エリア開業
- 7月：パリ五輪 日本はメダル45個獲得
- 8月：イスラエル軍がガザ地区で学校を空爆
- 9月：大谷翔平選手、米大リーグ初「50-50」
- 10月：被団協にノーベル平和賞
- 11月：福島第一原発、デブリ試験的取り出し成功
- 12月：紙の健康保険証の新規発行停止

2024年-事業内容-

- 1月 第一例会 賀詞交歓会「共動共創～心が導く笑顔溢れる相模原～」
- 2月 第一例会 通常総会
- 3月 第一例会 乗り遅れるな！D&Iの新時代経営～慈善じゃねえのよ ダイバーシティ～
- 4月 第一例会 Connect with Sagami-hara～誇りの種を植える！～
- 4月 第二例会 人生一回～諦めずに踏み出す心～
- 5月 第一例会 相模原JC杯U-11 少年少女サッカー大会～次代を担う心豊かな子ども達～
- 6月 第一例会 理事長候補者選挙
- 7月 第一例会 OB交流会「One team Sagami-hara」
- 8月 第一例会 理事候補者選挙
- 9月 第一例会 神奈川ブロック大会鎌倉大会「鎌倉の魅力へAll for one!!」
- 9月 第二例会 Connect with Sagami-hara ～誇りの芽を育てる！～
- 10月 第一例会 市長例会 さがみはらD&I元年 個－Creation いいからダイバーシティだ！
- 11月 第一例会 卒業例会『継承～十五通りの軌跡～』
- 12月 第一例会 定期総会

■1月.LOM事業 京都会議「おもてなしから友情へ」～start of new year～ ■3月.LOM事業 会員交流「春の夜、絆芽生えるBBQ」
■6月.LOM事業 JCI ASPAC カンボジア大会 ～Cambodia time kick off!!～ ■6月.LOM事業 3LOM合同事業 ■7月.LOM事業 サマコン ■8月.LOM事業 さがみはらジュニアハイスchool議会議会2024～未来へはばたけ次世代のリーダー～ ■10月.LOM事業 全国大会「未来へ続け！おいさ！」 ■11月.LOM事業 JCI世界会議 桃園台湾～Let's touch the world～ ■推進事業.みんなちがって、みんないい～D&Iで光彩を放つまちづくり～/アカデミー育成年間研修プログラム「Let's ACTION!!」～一歩踏み出す勇氣～



夢を描く
輝きのその先へ

A large group of people, mostly men in business attire, posing for a group photo in a large hall. Many are making 'V' hand gestures. The photo is credited to 'Photo: T. Kato'.

2025年度卒業生 23名

- 1 岩田 淳 17 原崎 伸也
- 2 西元孝 将大 18 石井 大介
- 3 山田 泰輝 19 瀧崎 明生
- 4 中村 拓矢 20 小池 俊
- 5 九嶋 俊豪 21 石垣 雄平
- 6 細野 俊彦 22 立花 勇次
- 7 八木 貴弘 23 野崎 雄一
- 8 石崎 悠也
- 9 山口 望一郎
- 10 平佐川 轟平
- 11 新井 淳一
- 12 長 義孝
- 13 小澤 慎太郎
- 14 小林 俊輔
- 15 渡部 一歩
- 16 CHUHO VUTHANAK

組 織 図

総 会

監 事 山田 泰輝
外部監事 松野 真希
伊藤 剛

外部顧問
飯塚 侑

第56代理事長

未来戦略特別会議
議長 廣田 静香

理 事 会

理 事 長
八木 貴弘

副理事長
廣田 静香

専務理事
石崎 悠也

正会員数：160名

第59代理事長

特別出向
大井 駿平

60周年特別グループ
担当常任理事
沼屋 将雄

人材育成グループ
担当常任理事
堀尾 経雄

未来創造グループ
担当常任理事
細野 雄彦

地域グループ
担当常任理事
小松 将弘

総務グループ
担当常任理事
山口 望一郎

60周年特別会議
議長 平岩 拓路
CHUHO VUTHANAK

- 矢島 輝平
- 坪井 俊輔
- 座間 航平
- ◆坂東 誠
- 沼沢 雄英
- 小林 龍弘
- ◆芳佐 高
- 田畑 大
- 奥松 祥希
- 石井 大介
- 山口 健志
- 平本 竜野

60周年式典祝賀会連発
井上 大地

- 伊藤 忠重
- 菊池 朗
- ◆森 道洋
- 山本 勝宏
- 岡山 泰
- ◆伊藤 博信
- ◆比嘉祐太郎
- 長谷部健太
- 山田 康博
- 中村 拓矢
- 喜方 佑希
- 鈴木 直哉
- 桜井 貴博

60周年式典祝賀会連発
井上 大地

- 小泉 晃
- 松井 美樹
- ◆星 泰樹
- ◆西田 悠人
- 山口 正喜
- 黒田 紳士
- 高木 信実
- 大沼 翔
- 川嶋 純矢
- 森山 隼一
- 佐々木尊太
- 吉森 拓太

拡大特別会議
議長 東原 陽貴

- 大内 達
- 細野 雄一
- ◆沖 光貴
- 加藤 俊空
- 伊藤 佑治
- ◆松本 泰樹
- ◆吉澤 清央
- 新井 淳一
- 遠藤由紀子
- 高木 雅也
- 大沼 翔
- 中田 翔

アカデミー育成
谷 樹人

- 松所 剛史
- 小山 恭弘
- 古野 和之
- ◆窪田 のり
- 遠藤 みり
- 鈴木 真入
- ◆村重 義昭
- ◆金子佑佑香
- 奥田 洋丸
- 中村 直人
- 鈴木 光希
- 石垣 雄平
- 小澤雄太

心の聲が伝えます
河合 俊偉

- 森田 圭介
- 八木さやか
- 星乙女 蘭
- ◆白井 拓也
- 江崎 友
- 永澤 正和
- 坂野 謙太
- 永井 将也
- 島山 祐
- 小嶋 祐貴
- 細谷 アイラン

次世代リーダー
原崎 伸也

- 森田 梨日
- 家数 武典
- 山本 剛弘
- 佐俣 梨日
- 家数 武典
- 仁村 正美
- ◆吉澤 信彦
- ◆瀧澤 洋子
- ◆高橋 明生
- ◆奥 武彦
- 川口 泰央
- 鈴木 順也
- 中根隆之介
- 小沢カヲヲス
- 千葉 和樹
- 井上 哲

シニアプライド確立
山本 剛弘

- 岩田 淳也
- 新田 匠之
- 富田 啓
- ◆黒澤 洋子
- 前田 大輝
- ◆所 太朗
- 竹本 寛理
- 天野 希望
- 鈴木 紅
- 中根隆之介
- 小沢 純
- 大木美沙菜

職業希望特別会議
議長 須藤 一歩

- 加藤 匠
- 前田 大輝
- ◆竹本 寛理
- 田原 来夢
- 鈴木 紅
- 中根隆之介
- 小沢 純
- 大木美沙菜

総務
岡田 雄大

- 小林 達
- 瀧澤 幹太
- ◆立花 勇次
- 宇佐川 轟平
- 中山 卓介
- 菊池 真寛
- 森田 康
- 田原 拓弘
- 新事業部部長
- 金井 拓巳
- 石井 雄士
- 河戸 太朗
- 天野 良樹



に出会える場でもあり、数々の出会いが自分の新たな一面や挑戦を引き出してくれました。仕事だけでは得られない視点や仲間との繋がりに溢れた場所だと思っています。

編集部 最後にメンバーへ、メッセージをお願いします。

八木理事長 勇気を持って挑戦してください。最初から何でもできる人はいません。期待されて一歩踏み出した先に、人の繋がりと感謝の心が生まれ、大切な人を想い挑戦する勇気が育まれていきます。人を想い、まちを想い挑戦する姿は、このまちに住む人たちに勇気を届けます。過去に例がないからといって止まる必要はない。

前例がないなら、自分たちが新たな未来をつくれればいい。あなたの挑戦する姿が、未来の相模原をつくります。



SDGsと相模原青年会議所の歩み

「地球上の誰一人として取り残さない (leave no one behind)」2015年9月、国連サミットにおいて全加盟国一致で採択されたこの理念は、2030年までに持続可能でより良い世界を実現するための国際目標として、世界の共通課題となった。相模原青年会議所は2019年3月、相模原市と「SDGs協働推進宣言」を締結し、この理念を地域に根づかせるための挑戦に歩み出した。その第一歩として、市民参加型フェスティバル「さがみはら大作戦～未来を創るSDGsフェスティバル～」内において、初めての「SDGsアワード」を開催したのである。以来、この取組みは市民の輪を広げ、市主体の事業へと成長した。現在では相模原青年会議所、津久井青年会議所と協働し、「SDGs達

成に貢献する企業・団体の優れた取組み」を表彰することで、SDGsの普及推進を図る制度として継続している。地域の企業や団体が果敢に挑み、その志が評価される場を築いたことは、市民の誇りを醸成すると同時に、地域全体の未来志向を確かなものとした。そして2023年、相模原市は日経グローバル『全国市区第3回SDGs先進度調査』において、全国5位という輝かしい成果を収めた。その背景には、行政、市民、そして青年会議所が一体となり挑み続けた歩みがあったのである。相模原の未来を共に描く挑戦は、今も続いている。SDGsの旗のもと、市民の力を結集しながら「誰一人取り残さない」社会の実現へ、青年会議所はこれからも先頭に立ち続ける。

クワイエットアワー 静寂が生んだ気づき

2022年、相模原青年会議所は感覚過敏を抱える人々の声に応え、市内商業施設で「クワイエットアワー」を実施した。普段は賑やかな店内が静寂に包まれる光景は、誰もが当たり前と思っていた「音」が、ある人にとっては障害となることを明確に示した。この取組みはNHKでも紹介され、全国へと発信された。しかし、その意義は決して大規模な運動の派手さにあるのではない。社会に埋もれがちな声を拾い上げ、そこに耳を傾けること。そうした小さな積み重ねこそが、すべての人が安心して暮らせる共生社会への道を切り拓いていく。クワイエットアワーは、特別な準備を要するものではない。むしろ、ほんの小さな工夫と理解が、多くの人に安心と希望をもたらす。そして、そうした運動の積み重ねこそが、まちの人々の意識を変え、すべての人に優しいまちへと繋がっていくのである。



ESD事業 「地域の先生」から未来へ



相模原青年会議所が始めた職業講話事業「地域の先生」は、子どもたちが多様な仕事に触れ、地域への誇りと将来への夢を育む場として展開されてきた。その精神は、現在「さがみはらESD推進協議会」へと引き継がれ、ESD (持続可能な開発のための教育) 事業として発展を遂げている。ESDは、SDGs目標4「質の高い教育」のターゲット4.7に位置付けられ、さらに全ての目標達成に貢献するものである。子どもたちが職業人の生の声を聞き、課題を考え、表現する機会は、まさに「持続可能な社会の創り手」を育む教育そのものである。これまでの講話には、市長が登壇する機会も

設けられた。地域のリーダーが自らの思いや経験を語ることで、子どもたちにとって社会を身近に感じ、未来を描ききっかけとなった。登壇するのはオリンピック選手、弁護士、行政書士、職人やアーティストなど多彩な顔ぶれであり、その一つひとつが生徒たちに新しい視点を与えている。青年会議所は単年度制である。しかし事業を創り、別団体に引き継ぐことで、その価値を未来へとつないでいく。「地域の先生」から「さがみはらESD推進協議会」へ——この継承こそが、次世代の育成と地域の持続的な発展を結ぶ、確かな架け橋となっている。



「なつのおと」コロナ禍が生んだ物語

2021年、コロナ禍で人が集まることに制限がある中でも「地域と協働する運動を絶やしたくない」という熱意が、新たな挑戦を生み出した。シビックプライドの向上を目的に、オリジナル絵本『なつのおと』を制作したのである。物語は、主人公の子ども2人が夏の相模原の名所や行事を巡る冒険。ページをめくると色鮮やかな挿絵とともに、川のせせらぎや祭り囃子など数々の「音」が散りばめられ、まちの魅力を立体的に感じられる構成となった。制作には、多摩美術大学情報デザインコースの学生や、委員長・廣田君の小学生の娘のひらめきも取り入れられ、地域と世代を越えた協働の形が結実した。完成した絵本は読み聞かせ動画としても発信され、人気芸人チョコレートプラネットがユーモアあふれる語り口で披露。さらに相模原在住の声優・上原すず氏や小学

生たちも参加し、多様な表現で物語を届けた。この取り組みは日本青年会議所関東地区協議会の表彰において「最優秀地域社会向上プログラム」を受賞。困難な時代にあっても、相模原の風景や文化を絵本という形で未来につなげた挑戦は、確かな誇りと共に地域の心に刻まれた。



日本全国を突如襲ったパンデミックに立ち向かう

2020年、新型コロナウイルスは世界を揺るがした。人が集うことが制限され、祭りも会議も次々と中止に追い込まれる中で、「それでも運動を止めてはならない」と立ち上がったのが、市川雄士理事長率いる相模原青年会議所である。「前を向くことこそ青年会議所の使命」その信念のもと、数々の挑戦が生まれた。ゴールデンウィークには、市民を自宅から巻き込む「#ステイホームさがみはら クイズ王決定戦」をオンラインで開催。笑顔とつながりを画面越しに取り戻した。さらに、地域への誇りを再確認する「さがみはらシビックプライドWEBフェス」や、ニューノーマル時代を見据えた「共生シンポジウム2020」など、従来なら会場に集めていた催しを果敢にオンライン化。YouTube配信や双方向の仕掛けを駆使し、市民と新しい形での対話を実現した。また、地域経済や教育現場への影響を憂い、メンバーの声を集めた「要望書」を市長・議長・教育長に提出。現場感覚を行政へと届ける架け橋となった。さらに、未来への希望を

視覚化する「モザイクアート2030年行動宣言」、心を一つにした「全国一斉花火プロジェクト」への参加など、市民の心に灯をともし活動も展開した。困難に背を向けず、むしろ逆境を力に変えて挑戦を重ねた2020年。その姿は、まさに「コロナに立ち向かう青年の証」であった。市川理事長のもとで示された数々の工夫と行動力は、今も私たちの胸に熱く刻まれている。



ステイホームの連休に挑んだ「クイズ王決定戦」

2020年、外出自粛が呼びかけられたゴールデンウィーク。相模原青年会議所は「歩みを止めない」との信念のもと、市民が家で安心して楽しめる事業を立ち上げた。「ステイホームさがみはら ゴールデンウィーク クイズ王決定戦」である。本来、外に出かけたい大型連休だからこそ、「家にいてもらう」ことを前向きな体験に変えることが狙いだった。出題されたのは、相模原の歴史や文化を題材にしたご当地クイズ。市民が自分のまちを再発見できる内容に工夫され、YouTubeや特設ページを通じた呼びかけやルール解説など、オンラインの強みを積極的に活用した。結果、999世帯・3,000人以上が参加。家族や仲間と画面を囲み、相模原の魅力を学びながら夢中で挑戦した。豪華ステイホーム応援グッズの抽選発表には、画面越しに笑顔と歓声があふれた。さらに参加アンケートを通じて教育や行政への意見も収集。後に相模原市への要望書としてまとめ、市長に手渡された。問題作成をとりまとめたメンバーからのメッセージが残っている。「願わくば、ひと時でも、一瞬でも、今年のゴールデンウィークの記憶を笑顔に塗り替えることができたなら、相模原は、

きっと大丈夫。あなたがクイズを解いてステイホームしてくれたから、あなたの大事な人の命がきっと助かった。だから、大好きな人のために、もうちょっと我慢しよう。相模原の、まちの元気はまだへこたれずに済んでいる。お外に出かけても平気になったら、まちの中の『さがみはら学』を探してみてね。まだ知らない人に相模原の『面白い』を伝えてあげてね。」苦しくて仕方なかった連休を「笑顔の思い出」に変えたい。外に出られない日々を「相模原の魅力を見つけ直す時間」に変えたい。その一心で、この企画は走り抜けた。まさに「歩みを止めない」という使命感がにじむ、未来を見据えた挑戦であった。



実際のクイズから出題！ 厳選 OX クイズ！！ 《問題》

- ①相模原市民桜まつり実行委員長は毎年、相模原市長が務める。
- ②南区麻溝には、「にわとり通り」という道があり、養鶏場や直売所が集中している。
- ③こもれびの森に棲んでいるダンゴムシは外来生物である。
- ④戦国時代～江戸時代に淵野辺城という城があった。
- ⑤相模大野もんじえまつりの『もんじえ』とはフランス語である。

相模原にまつわるこのような問題が全200問、50問ずつ4日間にわたって出題された。子どもでも正解できる問題から、長年住む市民も知らないような問題もあった。楽しみながら相模原の歴史や魅力を感じられる企画には、問題作成メンバーの強い願いと想いが込められていたことが分かる。問題は「ステイホームさがみはら ゴールデンウィーククイズ王決定戦」で検索すると、現在も見ることができる。コロナによる外出制限がない今、これらのクイズを確かめる相模原巡りをしてみたいはいかがだろうか？ きっと知らなかった魅力に出会えるだろう。



《答え》①×(相模原青年会議所の理事長が務めている) ②×(正しくは「たまご街道」) ③×(日本在来「コシビロダンゴムシ」が生息している) ④×(淵野辺上ではなく「津久井城」があった) ⑤○



【会員資格制度の改訂による組織変革

相模原青年会議所は、持続可能な組織であり続けるために大きな決断を下した。従来の「青年経済人」だけでなく、未来を担う学生にも門戸を開いたのである。学生の行動力と創造力を取り入れることで、地域のニーズを新たな視点から掘り起こし、これまでにない事業構築が可能となった。また、学びを求める学生の入会が、200名LOM達成への追い風となり、さらに人材難に直面するメンバー企業にとっては、地元採用の新たな機会をも生み出した。この制度改訂は、

単なる会員拡大にとどまらず、地域への波及効果をもたらした。学生起業への支援、士業や専門家によるセミナー開催など、若者と経済人が交流することで新しい地域貢献の形が芽吹いたのである。多様な世代の参加によって組織は厚みを増し、安定的な運営と未来志向の運動展開が可能となった。この挑戦は日本青年会議所からも高く評価され、褒賞を受賞。相模原青年会議所が「次代を切り拓く組織」であることを全国に示したのである。

【雇用上手からサガジョブへ 共生社会を支える挑戦の進化

2021年、障がいを抱える人と企業をつなぐために、一日職場体験プログラム「雇用上手～うちに雇用よ～」を立ち上げた。履歴書作成や模擬面接から始まり、実際の職場で一日働く体験を通じて、働く自信を育み、企業には雇用の第一歩を示す試みであった。やがてこの取り組みは「サガジョブ」へと進化を遂げる。対象を障がい者だけでなく、就労に不安を抱える人々へと広げ、商店街や企業での職場体験を継続的に実施。そして2023年には、さらに一歩踏み込み、複数の企業が集う合同企業説明会を開催した。体験から説明会へ。より多くの企業と参加者が出会い、つながる場へと発展したのである。「雇用上手」で芽吹いた一日の体験は、「サガジョブ」によって雇用への道筋として形を変え、成長してきた。そこにあるのはただの就労支援ではない。すべての人が自分らしく働き、地域で活躍できる“共生社会の未来像”を描く挑戦である。



【地域と学生の出会いを繋ぐ

人口減少が進むなか、若者が地域の中に入りやすくするため、相模原青年会議所はつなぎ役として継続的な仕組みを動かしている。市内外の大学生と協働し、桜まつり会場のごみ分別ブースの案内、納涼花火大会の設営・運営、町田青年会議所と合同の境川クリーンアップ作戦での清掃事業など、現場の役割を学生に担ってもらう。輪は市内外へ広がり続けている。大切なのは一度の参加ではなく、体験が次の行動につながる。学生にとっては地域を知る時間であり、地域に見つけてもらう時間でもある。この取り組みには、学生が相模原への愛着を育み、卒業後もこのまちを選ぶ未来を描いてほしいという願いが込められている。いまや多くの事業で学生の協力は欠かせない。関わりの入口をさらに増やし、活力ある都市を次世代へ手渡していく。



【ジュニアハイスクール議会 中学生たちの宣言



2023年「さがみはらジュニアハイスクール議会」を開催。市内在住・在学の中学生が議員となり、地域の未来や課題を議論し、本物の議場で市に提言を行う3日間のプログラムである。最終日の本会議には本村賢太郎市長も臨席し、若き議員たちの声に耳を傾けた。議題は、いじめや不登校といった同世代が直面する心の問題から、健康をテーマとした「ヘルスツーリズム」の提案、情報格差を解消するためのSNS活用やポスター制作まで、多岐にわたった。議案は「賛成総員」で可決され、議場に新しい風が吹き込まれた。この取り組みの狙いは、若者の政治参加意識の低下に歯止めをかけ、「地域のことは自分に関係がある」と感じてもらうこ

とにある。「自分の1票では何も変わらない」という意識を転換させ、地域に主体的に関わる人材を育てる――その熱意が込められている。議論を通じて中学生たちは自らの可能性を発見し、「この相模原をもっと良くしたい」という思いを胸に刻んだ。ある生徒は「将来、またこうした場に立ちたい」と語り、新たな夢を見出した。このジュニアハイスクール議会は、参加者や保護者のみならず行政からも高い評価を受け、2024年・2025年と3年間にわたり継続実施されることとなった。彼らの言葉は単なる希望ではない。それは、未来を担う中学生たちの誓いであり、相模原の未来を創造する力強い宣言なのである。



釜山海雲台青年会議所との絆

戦後の日本は、まず外から学ぶ国だった。物資は海を越えて届き、学んだ技術はやがて内から応える力となり、国際商品となって世界へ、そしてふたたび私たちの手元へ戻ってきた。四囲を海に抱く島国の矜持は、独創の技術と、相互理解・相互信頼という見えない羅針盤に支えられていた。相模原青年会議所は、その羅針盤を胸に「日中友好青年の翼実行委員会」を立ち上げ、アジア各都市と各地青年会議所の営みを丹念に辿った。そして、候補としてひとつの名が鮮やかに浮かび上がった。韓国・釜山海雲台青年会議所である。空路が今ほど豊かでなかった当時、交流の扉は空と海の双方から開かれ、日本からは飛行機で釜山へ向かい、韓国からはフェリーでも日本を訪れた。仮調印から、本締結に至るまで幾度も顔を合わせ、語り合う中で、雲の上と潮風の道筋が、同じ志を運び、交わされた握手が歴史の扉を開いたのである。1982年、釜山海雲台青年会議所創立5周年の節目に姉妹締結を調印。この調印式には神奈川ブロック役員11名、LOMメンバー28名、メンバーの奥様4名が訪韓して立ち会った。言葉や慣習の違いを正面から見つめ、地域課題を持ち寄って膝を突き合わせる。調印書は高らかに誓う。「JCI信条に則り、経済、文化の交流を通じて両国間の理解を深めると同時に、両都市の飛躍と発展に貢献し、よりよき交流と地域社会における良き指導者となることを誓います」この言葉は儀礼では終わらなかった。40年超、私たちは互いの周年を祝い、公式事業に肩を並べ、友情の席で杯を交わ

してきた。航路はやがて空へ、そして時にはオンラインへと姿を変えたが、絆の温度は変わらない。輸入から学び、独創で応える。その往還が、国境を越える青年会議所運動の鼓動を響かせ続けている。私たちが海を渡って得た学びは、必ず地域へ還す。次の世代がまた、フェリーでも、飛行機でも、画面越しでも、ためらいなく手を伸ばし、互いの顔を突き合わせられるように。相模原と海雲台の間に刻まれた絆は、今も新しい出会いと成長へ、確かな光を放っている。



2016年～2025年 出向者 役員一覧

(日本本会理事会構成メンバー及び室幹事含む)

2016年

神奈川ブロック協議会
地域の未来創造委員会 委員長 小山 龍次

2017年

日本青年会議所
憲法輿論確立会議 議長 樋口 陽平

関東地区協議会
副会長 飯田 美津雄

2018年

日本青年会議所
規則審査会議 議長 宇田川 隼

関東地区協議会
監査担当役員 樋口 陽平

神奈川ブロック協議会
ブロック大会運営委員会 委員長 唐橋 二之

2019年

日本青年会議所
褒賞委員会 委員長 市川 雄士

関東地区協議会
経済社会構造委員会 委員長 飯塚 脩

神奈川ブロック協議会
副会長 小山 龍次

2020年

日本青年会議所
社会グループ 担当常任理事 宇田川 隼
室幹事 野村 勇次

関東地区協議会
監査担当役員 小山 龍次

神奈川ブロック協議会
未来共育委員会 委員長 山田 康博

2021年

関東地区協議会
副会長 市川 雄士

神奈川ブロック協議会
共創者育成委員会 委員長 九嶋 俊彦

2022年

神奈川ブロック協議会
副会長 飯塚 脩

2023年

日本青年会議所
LOM支援委員会 委員長 梅津 賢一

会頭選挙管理委員会
委員長 市川 雄士

神奈川ブロック協議会
監査担当役員 飯塚 脩

2024年

神奈川ブロック協議会
会長 飯塚 脩

運営専務 八木 貴弘

事務局
事務局長 秋野 真吾

関東地区協議会
副会長 飯塚 脩

2025年

日本青年会議所
TOYP委員会 委員長 山田 泰輝

神奈川ブロック協議会
直前会長 飯塚 脩

かながわの未来共創委員会
委員長 大井 駿平

創立60年代 LOM 運動指針

【基本理念】 共 創

【はじめに】

私たち、公益社団法人相模原青年会議所（以下、「当会議所」という。）は、「青年の英知と勇気と情熱を結集し、明るい豊かな社会の実現に向かって、地域社会と国家の発展を図り、会員の連携と指導力の開発に努めるとともに、国際理解を深め世界の繁栄と平和に寄与すること」を目的として創立から60年間運動を展開して参りました。活動エリアである相模原市は緑区・中央区・南区に区画され、それぞれの特色をもつ広域交流拠点都市として72万人の市民が住み暮らすまちとなり、より良いまちを目指し今なお変化を続けています。この躍進は、先人たちが挑戦する勇気と人やまちを想う情熱で行動を続けてきた努力の結果であり、その精神は今でも色褪せることなく私たちに引き継がれています。

創立50年代LOM運動指針では、消滅可能性都市、地方の没個性化、将来予見される人口減少などの課題を解決するために、まちのもつ魅力、歴史や文化を知り主体的に地域を創造するひとづくりを中心に、市民参画型社会の推進とシビックプライドの醸成を図り運動を展開して参りました。さらに、市民・行政・他団体と協働した自立したまちづくり運動を展開し、相模原市に様々な魅力、つながりを生み出して参りました。

これからの未来、この相模原市においては、リニア中央新幹線の新駅の設定、相模総合補給廠の一部返還地の活用、小田急多摩線の延伸などといった首都圏南西部における広域交流拠点都市としての発展が期待される一方、2035年には市内の高齢化率

が人口の35%を超え、2040年には人口減少と高齢者人口の急増に伴い地域の多極集中が進み、2050年には一部地域で行政サービス維持が困難になると予測されています。また、日本全国においても、同様の傾向があるとともにICT、AI技術を活用したインフラのスマート化が進むとされています。さらに、世界規模では、人口の増大による食料需要のひっ迫傾向、そして、温暖化をはじめ地震・津波・豪雨・竜巻などの気候危機が予測されています。

様々な課題が一つの地域だけに留まらずに複雑に絡み合い、世界規模で影響を及ぼす時代だからこそ、私たちは中山間地域と都市機能を併せもつ相模原の魅力、そして市民の力を最大限に引き出すとともに、周辺地域や日本、世界とのつながりで課題を解決し、新たな未来を共創することが求められています。

創立60年代LOM運動指針では「共創」を基本理念にしています。共創という言葉には、人と人、企業と企業、地域と地域の顔の見える関係を大切にし、つながりを深め新しい未来を共に切り開き、地域社会の課題を解決していきたいという強い想いが込められています。そして、それぞれのエリアがもつ特色が活かされ「人が集う“共創都市”さがみはら」を創出して参ります。

私たちの変化を恐れない未来への挑戦から、仲間、地域、社会とのつながりを深め、新たな可能性を生み出す運動を展開して参りましょう。

【運動指針】

ひとづくり

人は人によって磨かれ、人の心は周りの人との関係を通してこそ豊かな成長をしていきます。人と人とのつながりが豊かな人格形成を生み出し、周囲に良き影響を与える人となります。つながりとは、個人または共同体との間の共感や相互支援から生まれる縁や絆のことです。私たちは、地域への愛着と誇りを土台に、つながりの中で人間性と社会性を育み、地域の課題解決に率先して取り組む行動力をもち、パートナーとともに未来を共創する人財を育てて参ります。

(1)シビックプライドをもつひとづくり

つながりを育むためには、まず自らが何者なのかを理解しなければなりません。歴史・文化を知ること私たちそして相模原のあるべき姿が見えてきます。まずは、私たちをはじめ市民が、相模原市と旧津久井郡四町の歴史や文化を知り、相模原への愛着と誇りを育む場を創り、まちのために主体的に行動する市民を増やします。そして、あらゆる世代が地域と向き合い、自らの力とつながりから生まれる力で可能性を拓く場を創出していきます。さらに、多様な立場の人々が交わり共に学び成長する中で、その人がもつ資質が磨かれ、市民一人ひとりの挑戦する力を育み、誰もが輝ける未来を創って参ります。

(2)多様性を認め合えるひとづくり

明るい豊かな社会の実現には、誰もが生きやすく共に生きるまちづくりが必要です。まちを創るのは人であり、人の思い・価値観の集合体とそのまちのもつ魅力・特徴になります。見た目や言葉、障がいの有無、様々な個性や背景をもつ市民が、自らの個性に自信をもちながら、お互いの違いを認

め、尊重できる心をもつ市民を増やして参ります。また当会議所は、韓国釜山海雲台青年会議所と40年以上にわたる友好関係を通じて、相互理解と文化交流を深めて参りました。そして、市内でも130ヵ国以上の人々が暮らし、在日米軍キャンプがあるなど身近なところに様々な国際交流の機会が溢れています。こうした土壌を活かしつつ、お互いの歴史、多様な文化や価値観を理解し尊重することで、お互いの違いを認め合い協力し合える関係性を築き、障がい、ジェンダー、年齢、地域や国籍などに関係なく安心して住み暮らすことができ、すべての人が自らのもつ可能性を信じていきいきと活躍できる共生社会の基盤を築いて参ります。

(3)多様な才能を伸ばす青少年育成

この世に生を受けた誰もが自らの無限の可能性を信じて挑戦できる環境を整えていかなくてもなりません。そのためには、小さいうちから家庭や学校・施設だけではなく、地域とのつながりを深められる機会を増やしていく必要があります。そして、様々な環境で挑戦を続ける適応力を高めていくために、地域の課題解決プロジェクトなどに主体的に関わる機会を提供し、自ら考え行動する力、自己肯定感・自己有用感を高め失敗を恐れずに挑戦する力を育む機会を創って参ります。

(4)未来を照らすリーダーが育つまち、

さがみはら

当会議所は、人を想い、まちを想い、責任をもった若者たちがお互いに切磋琢磨し、実践的なリーダーシップを身につける場です。200名の会員一人ひとりが、地域の課題に当事者意識をもち、この地域だけではなく日本、世界へと知見を広げ、企画・提案・行動・発信を繰り返していくことで、ま

ちを変えていきます。対話と協働のプロセスの中で、一人ひとりがリーダーシップと主体性を養い、それぞれの持ち場で地域の担い手としての自覚を深め、その連なりが地域に持続的な活力をもたらし柔軟かつしなやかな社会の基盤となるのです。私たちは、人を育てることこそが、地域を育てることに直結すると信じています。「まちづくりは、ひとづくりから。」この理念を胸に、私たちは未来を担う仲間たちと共に歩みます。

まちづくり

まちづくりとは、このまちの抱える課題や、このまちに今後必要であることを調査・抽出し、これらの課題を解決するための持続可能な解決方法を計画し、力強く実行していくことです。このまちの魅力をより輝かせて、溢れる活力で地域の取組みを日本、世界の課題解決へとつなげ、市民・行政・他団体との協働を通して、暮らしや仕事、人とのつながりが豊かに育まれ、生活・産業・交流の中心となるまちを創り上げる運動を展開します。

(1)安心して子育てできるまちづくり

相模原市は20代・30代の若い世代を中心に市外への人口流出が続いており、地域の将来を担う世代の定着が課題となっています。若い世代が相模原市で安心して暮らし、出産と子育てができる環境を整えることは、このまちが持続的に発展していくために必要です。令和7年4月1日には相模原市子育て応援条例が施行され、行政だけでなく市民や民間事業者も一体となって子育てを応援する機運が高まっています。私たちはこの条例を推進し、自然と都市が調和した相模原ならではの子育て環境の魅力を、積極的に発信して参ります。また、子育てしやすいまちを築くには、災害に強く安

心して暮らせる環境づくりも重要です。私たちは日頃からの防災意識の醸成に努め、備えや訓練を通じて市民同士の共助の関係を育みます。お互いに支え合える信頼のネットワークを広げることで、家族の命と生活を守り、誰もが安心して子育てができるまちを確立して参ります。

(2)地域が活性化する経済の発展

相模原市は首都圏中央連絡自動車道（圏央道）が開通するとともにリニア中央新幹線の神奈川県駅（仮称）が整備されるなど様々なプロジェクトが進行中であり、今後ますます広域的なアクセスの向上と神奈川県駅（仮称）を中心に車で1時間の範囲に約985万人の圏域が形成されることでの産業、観光の振興が期待されています。これにより、相模原市は首都圏内外を結ぶ重要な交通結節点としての役割を担うこととなり、ビジネスや居住の拠点としての価値もさらに高まることが予想されます。また、政令指定都市の中でも市民の平均年齢が若く、生産年齢人口の割合においても全国平均を上回るなど、活力に溢れるまちです。こうした相模原の魅力と将来性を積極的に発信しながらリーディング産業の誘致、スタートアップ企業や新規創業の支援を推進するとともに、地元企業と若い世代のマッチングを推進し市全域における産業の活性化を図ります。そして顔の見える関係性の構築を通じて交流人口・関係人口・移住定住人口を増やし、多様な知恵と力が集まることで、地域課題に対する新たな視点と解決策を生み出す“共創のまちづくり”を力強く発信して参ります。

(3)心身を育むスポーツ都市の創造

相模原市は328.91km²の広大な面積に多彩な自然環境があり、市内にも多くのプ

ロスポーツチームが設立されています。また、スケートボードのオリンピック金メダリストを輩出するなどアーバンスポーツを楽しむ場も市内に増えてきています。しかし、このような豊かな地域資源が市内外に十分に周知されているとは言えません。スポーツは心身の健康の維持に寄与するだけでなく、責任感や克己心、チームワークやフェアプレーの精神を養うことで人を思いやる心をもつことにつながり、青少年健全育成や地域コミュニティの醸成にも重要です。そこで、私たちは相模原の魅力としてスポーツを推進することで、あらゆる世代がスポーツを楽しめるまちの実現を目指し、交流とにぎわいを育むまちづくりに挑戦して参ります。

(4)新たなまちの魅力の創造と発信

相模原市は、日本中にどこにでもある農業、生糸で生計を立てる複数の集落の集まりから軍都計画により急速に都市計画が進み、1954年、8万人が住み暮らすまちとして相模原市が誕生しました。現在に至るまでのこのまちの発展・成長は、より良いまちにしていこうと変化を恐れず勇気と情熱をもって挑戦をし続けてきた先人たちの努力の成果です。この先さらなる発展を目指すうえで、多中心型の地域構造をもつ相模原の魅力を最大限活用し、イノベーションを起こします。その魅力を広く発信し続けることで多くの人が訪れ、多種多様な人が行き交うまちとなるよう挑戦を続けて参ります。

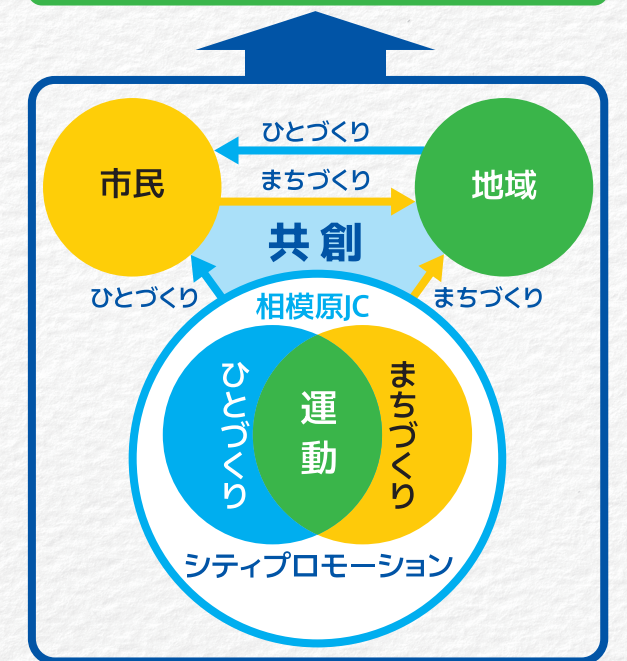
【結びに】

未来の見通しは難しく、情報社会として飛び交うニュースに振り回され、自分には関係が無いこと、遠い別世界で起きていることと思い人は目を背けてしまいます。し

かし、社会や環境の課題は、誰かが解決してくれるものではありません。「理想は理想でしかない」という他人事にならないよう社会を切り拓き、理想を現実のものへと変革させうる推進力となるものは、いつの時代も、情熱を有し、志を掲げ、果敢な行動力を有した青年であり、その英知を結集した私たち青年会議所です。

今までと同じ発想や同じ行動では人やまちは十分な発展をしていきません。「明るい豊かな社会」という理想の社会の実現に向け、己を律し、お互いを刺激し合い成長し、かつ、青年会議所を卒業しても各所で社会貢献を続ける人財を輩出できる組織は私たち青年会議所だけです。自らのもつ無限の可能性、青年会議所が有する革新性を信じ、それぞれのエリアがもつ特色が活かされ「人が集う“共創都市”さがみはら」の未来を共に創っていきましょう。

人が集う“共創都市”さがみはら



相模原のシンボルカラーは緑色。
ひとづくり（水色）とまちづくり（黄色）を行っていくことで、
相模原（緑色）をつくっていくという意味合いが色に込められています。

編集後記

60周年広報交流委員会 委員長 井上 大地

振り返れば、本誌づくりは途方に暮れる瞬間の連続でした。資料の山、記憶の断片、写真一枚の順番にも迷い続けましたが、最後に背中を押してくれたのはメンバーの協力でした。取材で先輩方の想いに触れるたび、私たちは“記念誌に遺すこと”の意味を学び、筆が前へと進みました。会議室で交わされた助言、夜遅くの画像整理、突然見つかった一枚の写真。どれもが、この一冊の厚みになりました。

この記念誌は昔話ではなく、次の世代へのバトンです。受け継いだ志を記念誌の1ページへと刻むことで、読み終えた誰かが次の語り手となり、また新しい物語を綴ってくれることを信じています。取材の途中、資料の余白に残った手書きのメモや色あせた裏書きに、当時の息づかいを見つけました。紙面に載りきらなかった断片は、次の編集者へ託すこととします。

最後に記念誌作成にあたり、共に一歩を踏み出してくれた全ての仲間に、そしてご協力いただきました関係各位の皆様に深く感謝申し上げます。この一冊が、職場や家庭、地域でのささやかな対話を生み、新しい挑戦の火を灯してくれることを願っています。

副理事長 兼 60周年実行委員長 廣田 静香

60周年特別グループ 担当常任理事 沼尾 将輝

60周年特別会議	60周年式典祝賀会運営委員会	60周年広報交流委員会
議 長 平岩 拓路	委員長 CHUOB VATHANAK	委員長 井上 大地
副議長 矢島 祥平	副委員長 伊藤 忠重	広報担当理事 小野 怜
副議長 坪井 俊樹	副委員長 菊池 朗	副委員長 小泉 翔
副議長 座間 航平	総括幹事 森 道洋	副委員長 松井 美樹
総括幹事 坂東 誠	広報幹事 有山 蒔恩	担当理事補佐 梨井 俊
広報幹事 沼沢 綾菜	委 員 與山 豪	総括幹事 西田 悠人
委 員 小林 晶乃	委 員 伊藤 将博	広報幹事 丸山 正喜
委 員 岩佐 篤	委 員 比嘉 祐太郎	委 員 副田 騎士
委 員 田畑 大	委 員 長谷部 健太	委 員 黒木 望実
委 員 養松 祥希	委 員 山田 康博	委 員 西元寺 将大
委 員 石井 大介	委 員 中村 拓央	委 員 森山 龍一
委 員 山口 勝志	委 員 振角 祐希	委 員 佐々木 寛太
委 員 平本 竜好	委 員 鈴木 直哉	



公益社団法人 相模原青年会議所